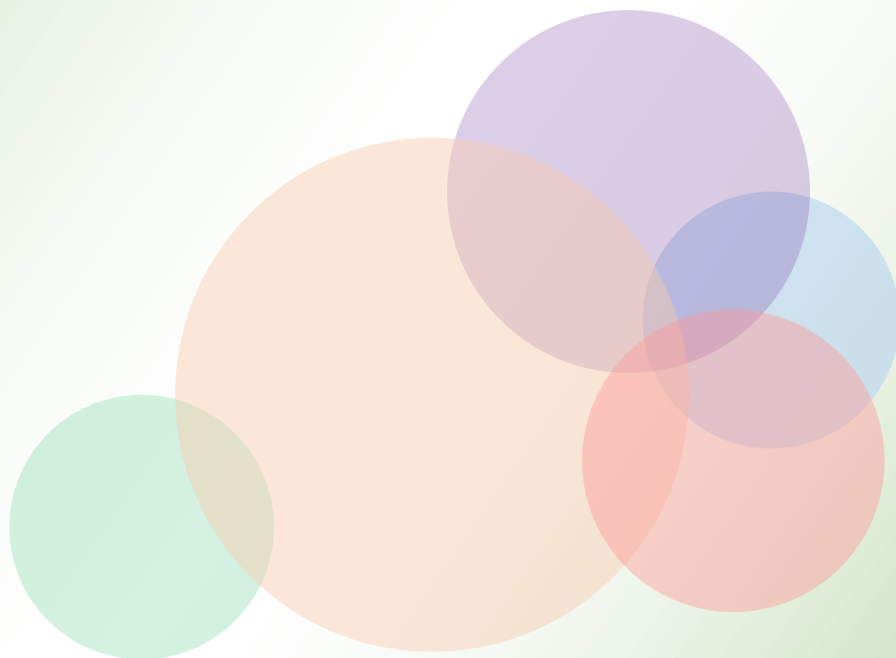


頑張る学校応援プラン

～ふくしまの挑戦と戦略～

学力向上に関する実践事例集

～全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校の取組～



共有 継続 自校化

令和2年2月

福島県教育庁義務教育課

学力向上に関する実践事例集について

この実践事例集は、全国学力・学習状況調査で特徴ある結果を示した県内17校を訪問し、その学校において実施している取組について県教育庁義務教育課がまとめたものです。

本事例集は、「実践編」と「資料編」の2部構成になっています。日々の授業や校内研修等で活用され、県内の各学校において、児童生徒の実態に応じた組織的・継続的な取組の一助となることを期待しています。

もくじ

【小学校】

《実践編》

- 継続と徹底による学力向上サイクルの確立と学習環境整備
[福島市立矢野目小学校](#) 1
- 全職員の共通理解に基づく、全校体制による自校化した実践
[伊達市立保原小学校](#) 1
- 子どもの学びの姿の共有と言語活動の充実
[平田村立小平小学校](#) 2
- 全員が関わり学習する学級風土づくりと授業改善の取組
[矢祭町立矢祭小学校](#) 2
- 親和的な学習集団づくりと言語活動の充実
[湯川村立勝常小学校](#) 3
- 校内研修を生かした日々の授業の工夫
[南会津町立南郷小学校](#) 3
- 「自分の考えを書かせる」指導の重視
[南相馬市立大甕小学校](#) 4
- 「理想とする授業」を可視化した資料に基づく日々の授業改善
[いわき市立平第一小学校](#) 4

《資料編》

- [福島市立矢野目小学校](#) 5
- [伊達市立保原小学校](#) 8
- [平田村立小平小学校](#) 9
- [矢祭町立矢祭小学校](#) 11
- [湯川村立勝常小学校](#) 14
- [南会津町立南郷小学校](#) 15
- [南相馬市立大甕小学校](#) 16
- [いわき市立平第一小学校](#) 17

【中学校】

《実践編》

- 「記述」と「基礎的な内容の定着」の継続指導
[福島市立福島第三中学校](#) 18
- 学習集団としての機能の向上と図書館教育の充実
[伊達市立伊達中学校](#) 18
- 「たて」「よこ」のつながりを重視した教育活動の実現
[郡山市立西田学園義務教育学校](#) 19
- 教職員の指導力の向上と授業の質的改善
[須賀川市立西袋中学校](#) 19
- 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成
[中島村立中島中学校](#) 20
- 「個人→共有化→言語化」を重視した授業展開の継続と生徒の実態把握
[喜多方市立会北中学校](#) 20
- 少人数のよさを生かした個別指導の工夫
[南会津町立館岩中学校](#) 21
- 生徒が相互啓発する授業と計画的な家庭学習の習慣化
[南相馬市立鹿島中学校](#) 21
- キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善
[いわき市立中央台北中学校](#) 22

《資料編》

- [福島市立福島第三中学校](#) 23
- [伊達市立伊達中学校](#) 24
- [郡山市立西田学園義務教育学校](#) 25
- [須賀川市立西袋中学校](#) 26
- [中島村立中島中学校](#) 28
- [喜多方市立会北中学校](#) 30
- [南会津町立館岩中学校](#) 31
- [南相馬市立鹿島中学校](#) 32
- [いわき市立中央台北中学校](#) 34

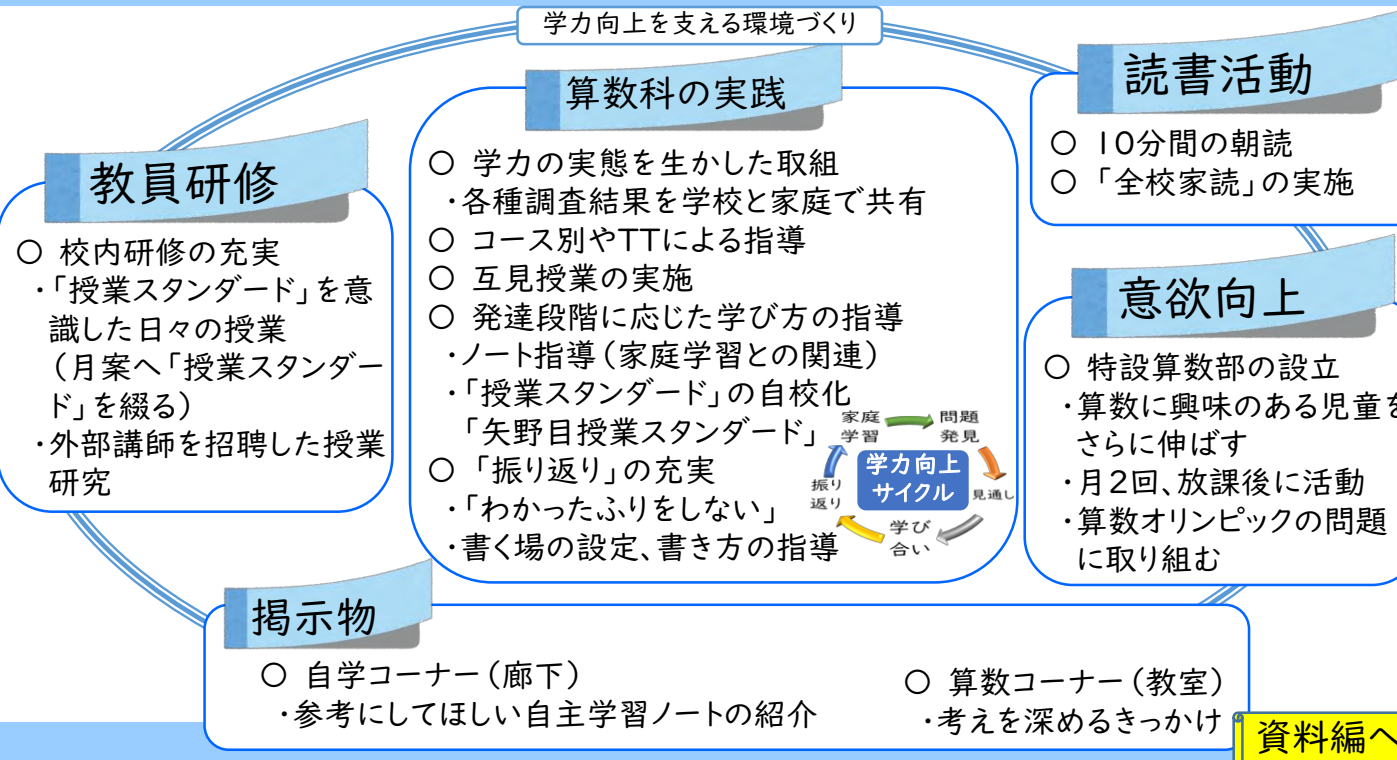
訪問した学校の共通点は、
「共有」「継続」「自校化」だね！



継続と徹底による学力向上サイクルの確立と学習環境整備

福島市立矢野目小学校

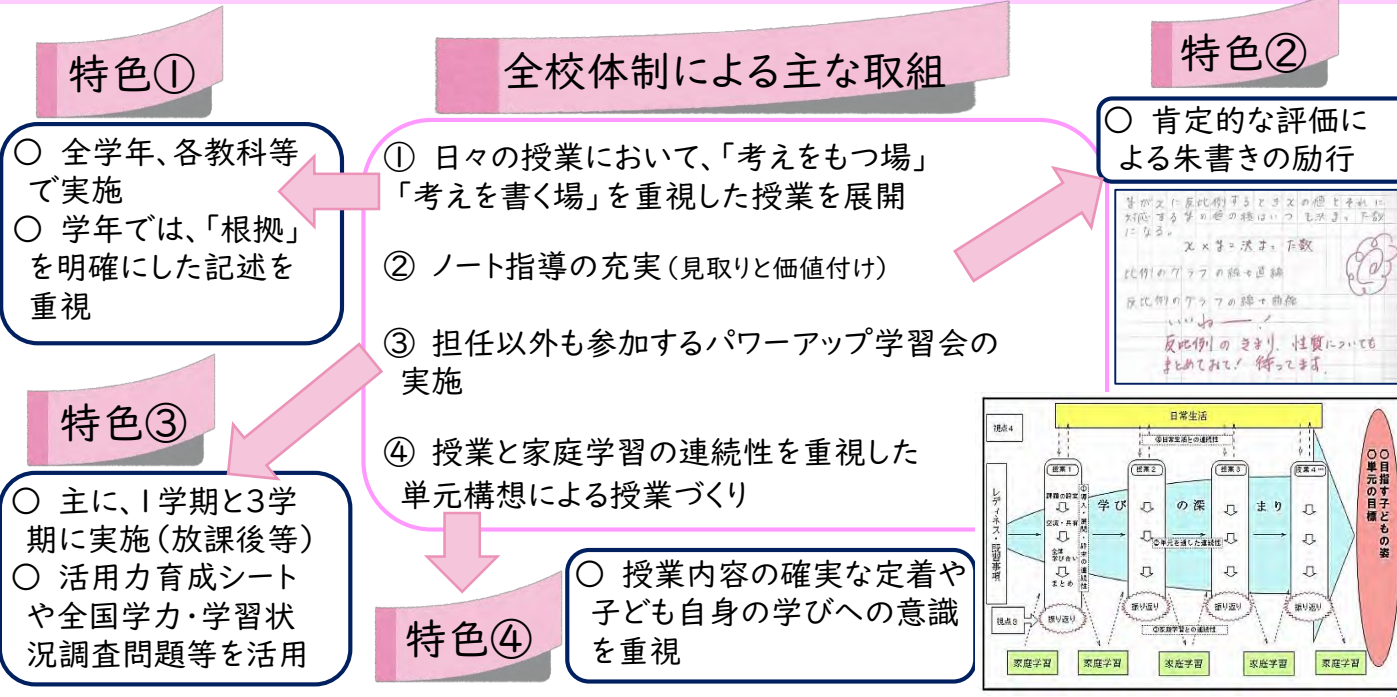
ふくしまの「授業スタンダード」を基に児童の実態を踏まえ自校化し、授業の質の向上に努めている。指導計画に活用力育成シートの実施を位置付けるとともに、各教科で単元の終わりに発展的な問題を取り上げるなど活用力育成に取り組んでいる。また、学力向上サイクルを支える環境づくりの充実を図っている。



全職員の共通理解に基づく、全校体制による自校化した実践

伊達市立保原小学校

全職員が自校の課題を捉え、国語科や算数科などの特定の教科に限らず、各教科等においても、「自分の考えを書く」という活動を重視して、日々の授業実践を積み重ねている。また、パワーアップ学習会を実施し、該当学年以外の教員も参加し指導するなど、全校体制で学力向上に取り組んでいる。



各学年において、各種調査等の結果分析・考察を踏まえ学力向上プランを作成し、学年の目標と手だてを明確にして指導に当たっている。また、目的意識・相手意識を重視した表現活動を充実させることで、「書く」「話す・聞く」等、表現力の向上にも努めている。

学年の実態把握及び課題と手だての明確化

- ① 学年経営グランドデザインの作成と活用
 - 教育目標を達成するための学年の目標と手だてを明らかにして日々の指導に生かす。
 - 家庭にも配付し、学校との共通理解を深め、連携を図りつつ個に応じた指導を展開している。
- ② 学年学力向上プランの作成と活用
 - 全国学力・学習状況調査をはじめとする各種調査、活用力育成シート等の結果分析・考察を基に、学年の実態を踏まえた学力向上プランを作成。また、学期ごとに振り返りを行い、課題に対する手だてを評価・改善し次学期に生かすようにしている。

言語活動の充実

- 表現活動の充実（書く活動、発表活動）
 - ・ 教科横断的な取組
 - ・ 相手意識・目的意識に支えられた取組
 - ・ 掲示物や集会等、表現する場の保障・充実

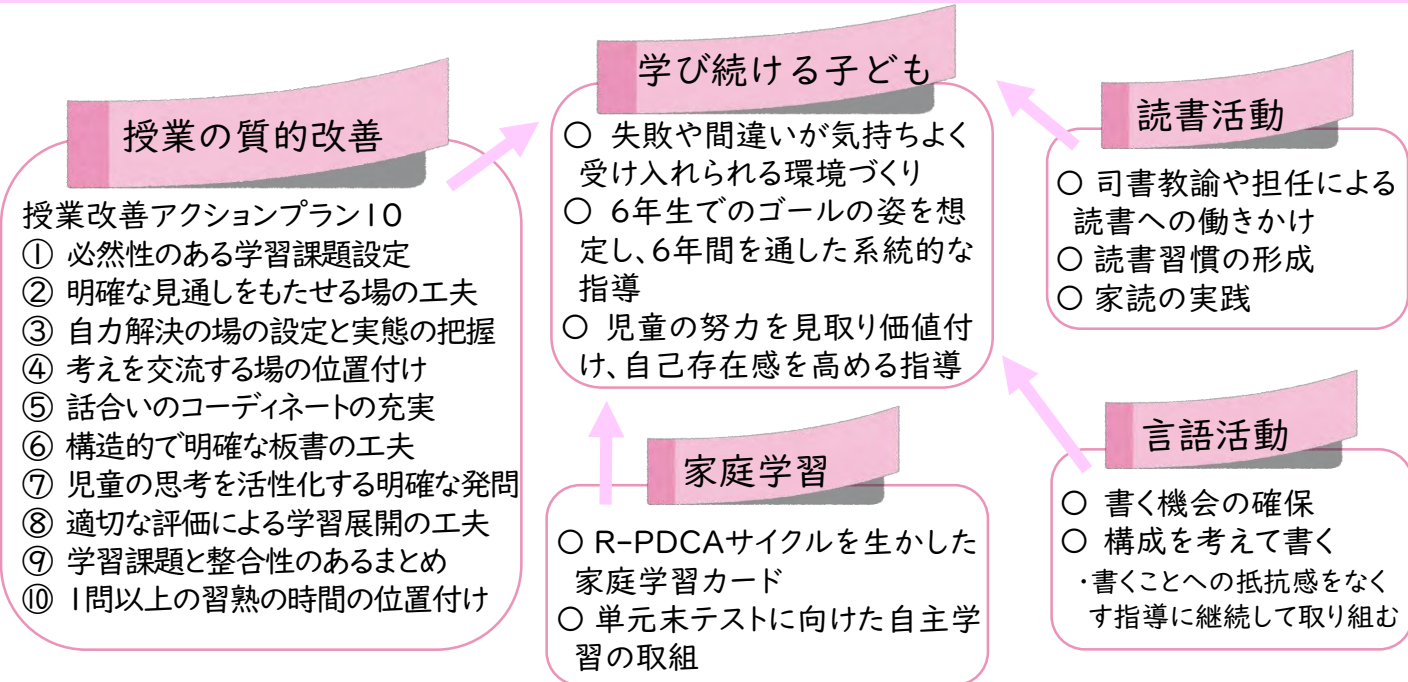
日常の取組

- 職員室での「子どもの学びの姿」の共有
 - ・ 先生方が、授業や子どもの姿等について気軽に語り合える雰囲気があるのが強み。

[資料編へ](#)

全員が関わり学習する学級風土づくりと授業改善の取組

児童が、主体的に考え、伝え合いながら課題を解決する授業づくりを目指し、授業改善アクションプランを設定している。教師は、それを基に授業を振り返り、学校全体でPDCAサイクルを生かした授業改善に取り組んだ結果、児童の学習意欲が向上し、学び合う集団としての質も向上している。



[資料編へ](#)

少人数学級の特性を生かしながら互いに学び合い、深め合うことのできる授業を展開するとともに、記述式の問題に対応するために教育課程全体を通して「書く」機会を設定している。また、読書活動や短歌、俳句の創作、各種コンクールの全員参加など、語彙を豊かにする取組の充実を図っている。

言語活動の充実

- 短歌や俳句の創作
- 新出漢字の先行学習
- 読書活動の充実
 - ・朝の読書、家庭読書、読み聞かせ
- 「書く」活動の充実
 - ・相手や目的を意識した表現
 - ・時間や字数等の制限

朝の時間の工夫

- スキルアップタイムの実施
 - ・ドリル等の解き直し
 - ・授業に関連のある問題
- 条件作文とスピーチの実施

親和的な学習集団

- 生徒指導の機能を生かした学び
- 学習の約束の徹底

家庭学習の充実

- 授業と家庭学習の連動
 - ・学習時間とメディアコントロールを意識させるための学習カードの工夫
- ノーメディアデーの実施

学力向上プラン

- 学習のねらいの明確化
- 伝え合う場の設定
 - ・「学習スキル」の掲示
- 個に応じた指導
 - ・学習形態の工夫
 - ・発展的な問題、補充的な問題
- 振り返りの時間の確保
 - ・学習内容の定着の時間
- 授業チェックシートによる指導の振り返り(週案)

資料編へ

校内研修を生かした日々の授業の工夫

校内研修を中心に、授業で取り組む手だてを共通理解し、実践している。管理職や研修主任からの情報提供、外部講師からの助言などを基に、日々の授業の充実を図っている。「記述」や「スピーチ」などの言語に関する指導を、授業だけでなく教育活動全体において数多く取り入れている。

学び合いのある日々の授業

- 学びの土台を整える指導(話す・聞く、約束事)
- 児童が活躍する授業
- 学びの見取り、意図的指名
- 振り返りの時間の設定
- 互見授業の実施
- 「授業スタンダード」の活用(発問例や学習の流れをラミネートして掲示)

校内研修の充実

- 模擬授業、事後研の工夫
- 分かりやすく具体的な指導
 - ・管理職からの情報提供
 - ・授業を撮影した動画を使った指導
 - ・研修主任による「校内研究だより」の発行
- 外部講師の活用、動画視聴による研修会

言語に関する指導

- 読書タイム
- 図書委員会の読み聞かせ
- 辞書引き学習の推進
- 条件作文、スピーチ

その他の取組

- 週2回の学力向上タイム
- 家庭学習強化週間
- TTの活用
- 中学校区での共通した取組の実践

日々の授業のまとめや振り返りにおいて、子どもたちが自分の言葉で書く機会をすべての教科で意図的・意識的に設定するなど、「書く力」を重視した教育活動を展開している。また、家庭学習においても、自分の考えを書かせる指導を重視している。

授業改善の重点の共通理解・共通実践

《改善に向けた具体策》※学力向上の「一丁目一番地」。どの教科でも同一歩調で実践。

- (1) 話し合い・学び合いを生かした授業を行う<話し合いの活動の場を設定する>
 - ・相手に伝わるような話し方・相手の考えを理解しようとする聴き方の指導を徹底する。
 - ・学習形態(ペア・グループ等)を工夫して意識的に取り入れる。
- (2) 課題設定の工夫をする<子どもに見通しをもたせる>
 - ・ICTを活用した具体的な資料を提示する。
 - ・日常性のある資料を準備することで課題意識をもたせる。

重要視

「書く振り返り」
「解く振り返り」

- (3) 書く力を育てる<振り返りを書く時間の確保>
 - ・まとめと振り返りの時間の確保のために、授業の展開内容を精選する。
 - ・めあてや条件に合った、まとめや振り返りを書かせる。

考えて表現する家庭学習

- 授業同様、家庭学習においても自分の考えを書かせる指導を重視している。自己マネジメント力の育成のため、計画と反省(振り返り)の記録も毎日行っている。

熱心な教師集団

- 先生方の研修意欲が高く、研修等で学んだことをすぐに授業にフィードバックしたり、お互いに情報交換をしたりしている。

資料編へ

「理想とする授業」を可視化した資料に基づく日々の授業改善

いわき市立平第一小学校

校内研修において、研究主題や内容の研修を行い、共通理解のもとに「理想とする授業」を作り上げ、日々の授業に生かしている。また、「人間関係の醸成」、「学び方の指導」など授業の基盤となる学級経営にも力を入れ、「認め合える文化」、「聞く力の育成」に努めている。

「理想とする授業」に向けた校内研修の充実

- 研究主題・内容の共通理解
- 授業につながる教材研究の工夫(教科書の比較、系統性の調査)
- 授業につながる資料や情報の共有
- 家庭への情報発信(授業研究や学習活動の紹介)



理想とする授業

日常の活動の充実

- 読書活動、体験活動の充実
 - 事後の伝え合い活動
- 書く活動の充実
 - 条件作文、振り返りの記述
- 「分からない」と言える学級づくり
 - 聞いてもらえる、認め合える文化の醸成
- 学び合う教師集団
 - 教科の本質に迫る教材研究、互見授業

資料編へ

「授業スタンダード」を見童の実態に合わせて自校化

(4) 矢野目小版「授業スタンダード」

段階	子どもの学ぶ姿	考えられる教師の手立て
導入	問題発見 ○ 前時までの既習事項や新たなことに出会い、それまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。 <自己評価力>	◎ 教師の発問や友だちの考えを正しく「聴き」とらせ、子どもの問いを引き出す。 ◎ 前時からのつながりを意識した導入をする。 ◎ 単元導入で子どもから問いを引き出しておき、課題はすぐに提示するが、その課題を子どもたちのものとして意識させる工夫をする。
	見通し ○ 既習事項や生活経験をもとに見通す。 ・ 解決の方法を見通す。 ・ 答えの見当をつける。 ・ 調べる視点をもつ。 ・ 学習の見通しをもつ。 <自己決定力>	◎ 今の自分の現状「 <u>自分の立ち位置</u> 」(どの既習を使うとできそうか)を確認させる。 ◎ 「立ち位置」が1時間後にどこへ向かっていくのかを具体的にイメージさせる。立ち位置に合った意見・考えをもたせ、交流させる。
学び	自力解決 ○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。 ・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。 ・ 自分の考えをもつ。 ・ 試しにやってみる。 ・ うまくいかないところは修正する。 ・ 分かったところと分からないところを整理する。 <実行力>	◎ 思考を促す発問を精選しておく。 ◎ 机間指導、発言、ノートなどから考えを見取り、指導に生かせるようにしておく。 ◎ 既習事項の使い方を工夫する。
	思考の共有と吟味 ○ 課題に向けて話し合い、思考を共有する。 ・ 友だちの考えをよく聴く。 ・ 自分と違う考えを理解する。 ・ 課題解決の内容を理解する。 ○ 思考を吟味する中で課題解決をする。 ・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。 ・ 規則性を見つける。 ・ 自分の考えを見直して再構築する。 ・ より分かりやすい表現にする。 <自己評価力・自己決定力・実行力>	◎ 教師のコーディネートにより、子ども同士の「学び合い」が成立し、思考の共有と吟味が子ども主体で行われるようにする。 ◎ 子どもの聴き方をほめて、育てていくようにする。 ◎ 教師が子どもたちの発言をよく「聴き」、子どもをつないだり子どもに戻したりして、自己肯定感を高めるようにする。 ◎ 既習事項の使い方を工夫する。
振り返り	適用まとめ評価 ○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。 ・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。 ・ 分かったことを広げて考える。 ・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。 <自己評価力・自己決定力・実行力>	◎ 課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。 ◎ 自己評価や相互評価を取り入れ、自分の立ち位置の変化(既習を活用し、新たな既習事項を習得できたか)に気付かせ、次時や家庭学習への意欲を高めさせる。
家庭学習	予習復習(自学) ○ 自分から進んで家庭学習に取り組む。 ○ 次時へつながるような復習・予習に取り組む。 <自己評価力・自己決定力・実行力>	◎ 保護者との連携を図る取り組みを継続して行うようにする。 ◎ 家庭学習が次時の導入につながるような課題の与え方を工夫する。

授業段階ごとに身に付けさせたい力を明記することで、教師が意識して授業を進めている。

「まとめ」の後に「振り返り」をしている。自分が何を学んだのか、何を感じたのか、今後は何をしたいのかを振り返り、自己評価力を高めている。

学力向上サイクルを支える授業周辺の取組

5・6年保護者様

令和元年5月22日

福島市立矢野目小学校長 菅野 信幸

特設算数部（算数大好きセミナー）の活動実施のご案内

陽春の候、保護者の皆様にはますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、矢野目小学校では今年度から、子どもたちの学力向上や、目標へ向けて努力する心を育成するというねらいから、毎年10月下旬の行われる「福島県算数・数学ジュニアオリンピック」の参加を目指して、特設算数部を新設いたしました。そのため、特設算数部の活動を今年度から実施したいと考えます。

つきましては、下記内容をご覧いただき、ご理解、ご賛同をいただける場合には、下記「入部申込書」に必要な事項を記入の上、5月29日までに各学級担任にご提出くださいますようお願いいたします。（入部は随時です。5月29日以降でも入部は受け付けます。）

記

1 目的

- 算数に親しむ機会を増やすことで、算数への興味・関心を高め、算数好きを増やします。
○ 福島県算数・数学ジュニアオリンピックに向けて、算数科の学力の向上を目指します。
○ 活動を通して、自主性や向上心を養います。

2 指導教師

3 参加予定の主な大会・コンクール等

- 福島県統計グラフコンクール（夏休み中）
○ 何でもはかってみようコンテスト（夏休み中）
○ 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（10月下旬頃）
○ 実用数学技能検定・算数検定
※ 基本的にはお子さんの都合で参加を決定します。（強制はしません）
※ 大会への送り迎えは、保護者の方をお願いします。
※ 各大会についての詳しい内容は、大会・コンクール等が近づいた際に、随時連絡します。

4 練習日程

- 6月～11月にかけ、月に2回程度、放課後の45分間活動を行います。
※ 詳しい日程は、「活動予定表」として配付します。

5 活動内容

- 指導教師が45分間の授業を行います。
○ プリント学習を行います。

算数に興味のある児童の力を高めるために、学年の枠を超えた特設部を設立した。放課後に月2回程度算数部を中心に指導している。

算数オリンピックで出題される問題を解きながら、「うつくしい算数」に触れる機会をつくる。

学力向上グランドデザイン



授業と家庭学習の連続性を重視した単元構想

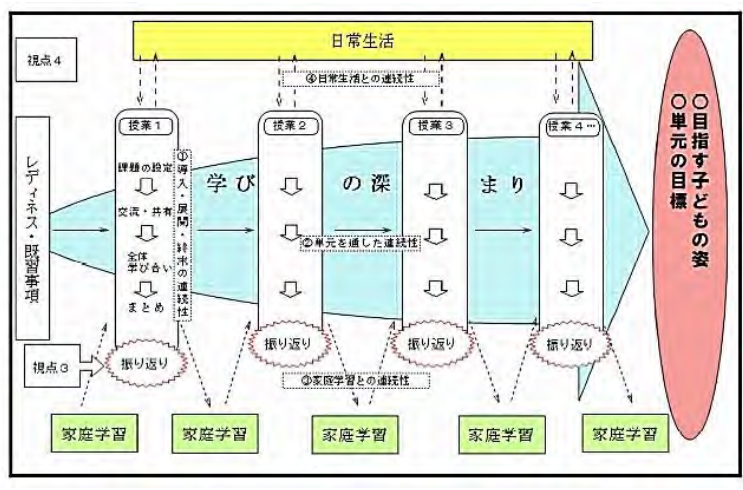
<5学年国語科「物語の良さを紹介しよう」>

<p>必要な既習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆすげ村の小さな旅館」での不思議な来客(伏線) ・「世界でいちばんやかましい音」での山場を境にした主人公の心情の変化 	<p>(日常生活)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジー作品との出会いによるファンタジー構造(現実→非現実→現実)の理解 ・本・まんが・アニメ・映画・ドラマ 	<p>知識として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物に見つかる和氣は失敗しやすい。 ・イギリスの近衛兵は真っ赤な上着に青の高い帽子をかぶっている。 	<p>日常的読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像を捉えながら読む。 ・表現の面白さや工夫に注目して読む。 			
<p>第1時</p> <p>○学習の見通しを持つ。 ・物語の内容を読み取る。 ・物語作りへの活かし方を理解する。 ・物語の良さを知り、解説文にまとめる。</p> <p>○初葉の感想を交流する。</p> <p>○新出演字の学習をする。</p> <p>○次時の学習課題と、次時の学習に向けた家庭学習を知る。</p>	<p>第2時</p> <p>○物語の中で、現実の世界と非現実の世界がどこで変わるかを考える。</p> <p>○(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。</p> <p>○(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場を通じて共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。</p> <p>・風がどうとうふいてきて、草はザワザワ、木の葉はカサカサ、木はゴトゴトと鳴りました。</p> <p>○物語を作るときには、現実→非現実→現実の変わり目をはっきりさせる構成にすることが、物語にめりはりが生まれることを理解する。</p>	<p>第3時</p> <p>○第一場面の叙述を手がかりに、賢治が二人の紳士の人物像をどのように設定したか読み取る。</p> <p>○(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。</p> <p>○(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場を通じて共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。</p> <p>・見た目を気にする ・残骸 ・命よりお金を大切にしている ・教養がない</p> <p>○二人の紳士はとても紳士と云える人物ではないにめりはりが生まれることを理解する。</p> <p>○物語を作るときには、設定の場面で登場人物の人物像が読み手に伝わるようにすることを理解する。</p>	<p>第4・5時</p> <p>○戸の言葉の意味と紳士たちの解釈を考える。</p> <p>○(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。</p> <p>○(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場を通じて共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。</p> <p>○「注文」は他の客が店に出しているのではなく、店(山猫)が紳士たちに出していることを理解する。</p> <p>○物語を作るときには、展開の場面や山場につなぐことが、読み手に伝わるようにすることを理解する。</p>	<p>第6時</p> <p>○物語全体の叙述をもとに、紳士たちの様子や気持ちの変化を読み取る。</p> <p>○(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。</p> <p>○(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場を通じて共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。</p> <p>○紳士の心情が恐怖へと変わっていったことを理解する。</p> <p>○設定の場面とらえた紳士の人物像には変化がなかったことを理解する。</p> <p>○物語を作るときには、山場での出来事を機に、中心人物に変わることが見られるような内容にすることを理解する。</p>	<p>第7・8時</p> <p>○第2時から第6時まででの学習を振り返り、宮沢賢治が物語をおもしろくしようと工夫したことを考える。</p> <p>・明確な人物像 →現実(設定) →非現実(展開・山場) →現実(結末)の構成 ・戸の言葉などの活かし ・色彩表現 ・擬声語や擬態語 ・繰り返しの展開</p> <p>○注文の多い料理店の解説文を書く。</p>	<p>第9・10時</p> <p>○班ごとに解説文を読み合い、宮沢賢治が物語をおもしろくしようと工夫を伝え合う。</p> <p>○各班の中から1〜2名の解説文を推薦し、発表し合う。</p> <p>○本単元の学習を振り返り、物語を読んだ感想、今後の学習で頑張りたいことなどをまとめる。</p>
<p>(家庭学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・睡語句の意味調べ ・現実の世界と非現実の世界がどこで変わるかを本文中から探し、境目となる行間に線をひく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・二人の紳士の人物像が読み取れる叙述と、そこから考えられる人物像をワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・戸の言葉の意味を復写し、山猫側の意図と紳士の解釈の二通りをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・紳士の様子や気持ちが変わる場面をワークシートに書く。 ・読書 読書の部屋「宮沢賢治」 	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ・※紳士や山猫たちの心情、様子が伝わるように工夫する 	

全職員が、授業と家庭学習の連続性を意識した単元を構想している。

学級掲示用(話し方・聞き方)

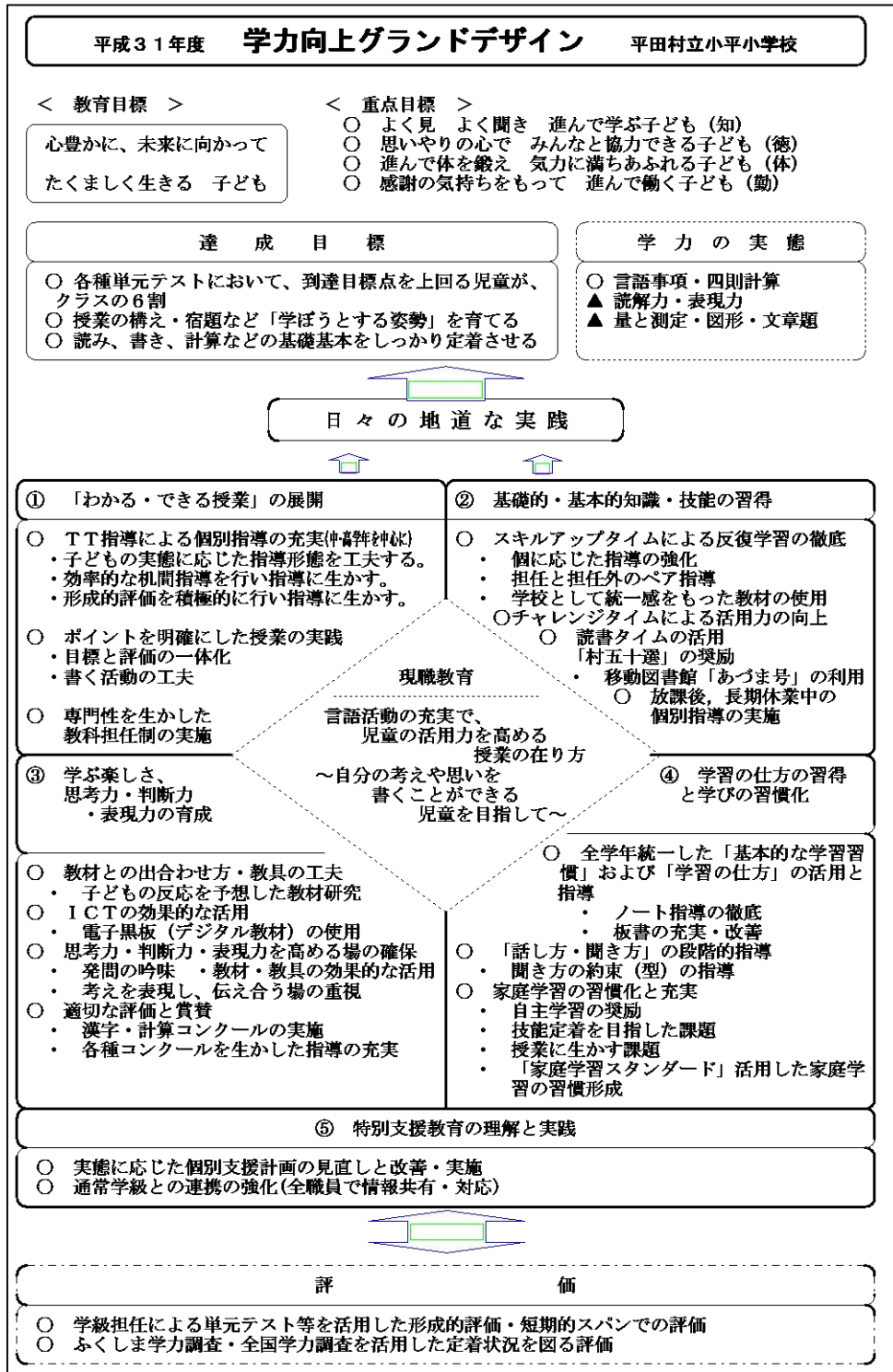
学びの連続性のイメージ図



こんな話し方、聞き方ができるようになろう!

レベル	話すこと	聞くこと	「話し合い」を大切にしよう!
レベル6	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとある考え方を明確に話す ・自分の意見を端的に話す 「このように」「つまり」「などの言葉でまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と似ているところやちがうところを聞き分ける 	<ul style="list-style-type: none"> あふ、分かる、分かる、それらそうだな。 もう少しくわしく教えて! 具体的にはどんな意味? どんなイメージ? もし〜だとしたら? ここまでは、私と違って、どう思うよ。 今の意見はいいと思うけど... ここを〜と考えたらどうかな? ...ということば、つまり〜ということばね。 言いたいことが分かる気がする。 ○○さんが言いたいのは、こういうことばね。
レベル5	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道の辻方を工夫する(句や裏などを使って) 「この紙(グラフ)を見てください、これは〜」 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人の気持ちを考えて聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 言いたいことが分かる気がする。 ○○さんが言いたいのは、こういうことばね。
レベル4	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例をあげて話す 「前は〜です。」 「前たちで明かをする」 「ここまでは、いいですか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比べて聞く 	<ul style="list-style-type: none"> あ、同じだ。 ちょっとちがうかも。 でも、わたしは... 前々を比べてみると... もともと前の考えを聞いてみよう! 例でもいいよ、言っておて、そうか! なるほど、そういうことね。 つまり、どういうこと? 大層なのは、...ということばね。
レベル3	<ul style="list-style-type: none"> ・理由をはっきり話す 「理由は〇つあります。1つ目は〜です、2つ目は〜です。」 「だから」「なぜなら」 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことは何かを考えて聞く 	<ul style="list-style-type: none"> うん、うん。 なるほど。 わかる、わかる。 へえ。 そうなんだ。 だよな。 わたしも、どう思う。 いい考えだね。 それで、それで? それか? どういう意味? どんな感じなの? えういどういって!
レベル2	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉を使って話す 「はじめに(まず)」「つぎに」「さいごに」 	<ul style="list-style-type: none"> ・短くメモをとりにから聞く ・分からないうちは聞き進まず 	
レベル1	<ul style="list-style-type: none"> ・順序が「いつ」「どこで」「だれか」「何を」「どのように」「どうした」 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の自(顔)を見て最後まで聞く 	

学力向上グランドデザイン



めざす教師の姿

- 「仕事に対する使命感や誇り」「子どもに対する愛情や責任感」(常に学び続ける向上心)をもつ教師
- 「子どもの心に火をつける」教養に情熱・意欲をもつ教師
- 「子どもの立場に立った指導」ができる人間性豊かな教師
- 「子どもに力を付け、育む指導力」を有し、発掘できる教師



【表現活動の充実】

基本的な学習習慣

基本的な学習習慣 小平小学校

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
学習の準備	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まる前には席について、自分なりの学習をしている 前時の学習を振り返る 学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする 	<ul style="list-style-type: none"> 時計を見て行動する 時間になったらすぐ席について、進んで学習している 本時の学習の見通しをもつ 学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする 	<ul style="list-style-type: none"> 時計を見て行動する 時間になったらすぐ席について、進んで学習している 本時の学習の見通しをもつ 学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする
必要な学習用具	<p>下敷き、鉛筆(4Bか2B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青鉛筆(または赤青ボールペン)、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、クレヨン、ものさし(2年)、三角定規(2年)</p>	<p>下敷き、鉛筆(2B～B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青ボールペン、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、ものさし、三角定規、コンパス(4年)、分度器(4年)</p>	<p>下敷き、鉛筆(2B～B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青ボールペン、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、ものさし、三角定規、コンパス、分度器</p>
机の上	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は左側、ノートは右側、筆記用具は机の右上にそろえて置く 必要なものを取り出して、筆入れは机の中にする 		
挙手の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 手をまっすぐ挙げる(「はい、はい」を連発しない) 		
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めと終わりは、日直(係)の合図に従い座りたままであいさつをする 		
聞き方	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときの4つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない、手をはさの上に置く) 自分の考えと同じか違うか、考えながら聞く 話を聞いて「なるほど」と思ったら、うなずき、相づち、拍手などをする 友達の考えを命やかしたり笑ったりしない 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときの4つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない、手をはさの上に置く) 話を聞いて「なるほど」と思ったら、うなずき、相づち、拍手などをする どんな話をしようとしているのか考えながら聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときの3つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない) 友達のよいところを見付けようとしながら聞く 友達の考えと自分の考えを比べながら聞く 大事なことはどういふことで、いくつあるのかなどを考えながら聞く 必要に応じてメモをとる
話し方	<ul style="list-style-type: none"> 指名されたら、「はい」と元気に返事をする 『声のものさし』 0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で) 順序を考えて話す 最後まではっきりと話す(単語で答えない) わけを付けたり、友達の考えを取り入れたして話す 「～は、～です。」 「わたしは～だと思います。」 「(みなさんは)どうですか。」 「～さんと同じです。そのわけは～だからです。」 「～さんちがいます。そのわけは～だからです。」 一番遠くの友達の方に体を向けて話す 	<ul style="list-style-type: none"> 指名されたら、「はい」と元気に返事をする 『声のものさし』 0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で) 順序を考えて話す 相手の話を内容を受けて話す 筋道を立てて話したり、根拠つけて話したりする 「～だと思えます。そのわけは～だからです。」 「(みなさんは)どうですか。」 「～さんはい～と言いますが、わたしは～のところは同じですが、～のところは少し違います。」 「～までは分かりましたが、～についてはまだよく分かりません。」 一番遠くの友達の方に体を向けて話す 	<ul style="list-style-type: none"> 指名されたら、「はい」と元気に返事をする 『声のものさし』 0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で) 順序を考えて話す 相手の話を内容を受けて話す 筋道を立てて話したり、根拠つけて話したりする 「～だと思えます。そのわけは～だからです。」 「(みなさんは)どうですか。」 「～さんはい～と言いますが、わたしは～のところは同じですが、～のところは少し違います。」 「～までは分かりましたが、～についてはまだよく分かりません。」 一番遠くの友達の方に体を向けて話す
書き方	<ul style="list-style-type: none"> 正しい鉛筆の持ち方を覚える 濃い鉛筆で書く ノートを押さえて書く 背中を伸ばして書く 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく濃い鉛筆で書く シャープペンシルは使わない ノートを押さえて書く 背中を伸ばして書く 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく濃い鉛筆で書く シャープペンシルは使わない ノートを押さえて書く 背中を伸ばして書く

学力向上グランドデザイン

矢祭町立矢祭小学校

教育目標	学力向上にかかわる学校経営方針
	① 基礎的・基本的な学力の定着と活学力の向上を図ります。
	② 子どもの学習意欲を育て、主体的に学ぶための学習環境を整えます。
	③ 体験的・探究的な学習を充実し、主体的・対話的で深い学びを実現します。

実態の分析・把握	児童の実態
	・学力及び学習意欲が個人差が大きい。
	・発言や発表に積極性が育ってきた。
	・言語で表現する力が育ってきた。
	・読書習慣が二極化している。
	H30年度 標準学力調査の結果

目標の設定	改善・向上・評価のための数値目標
	【単元テストの目標値】
	○国語科・算数科 ○理科・社会科 【標準学力調査】
	【県学力調査】 【全国学力・学習状況調査】

矢祭小学校の授業スタンダード	
教材との出会い 学習課題の把握	ねらいを明確にする
まとめと整合性のある課題の板書、単元計画から課題確認、資料や発問で意欲や解決の見通しをもたせる。	
追究・解決	自力で解決する場を確保する
机間指導で個人思考の状況をとらえ、必要な指導・支援をする。集団思考の場でのように取り上げるか構想を練る。	
話し合い・表現の場を確保す	
個々の考えの取り上げ方を工夫する。話し合いをコーディネートし、本時のまとめへと練り上げる。思考過程を可視化する。	
まとめ・振り返り	ねらいにそってまとめる
個々のまとめを発表させ、学びの共有化を図る。達成状況の評価し、補充・発展学習や家庭学習につなげる。	
新たな学び	次時につなげる
「分からないことに気づく」「新たに追究したいことが見つかる」ように働きかける。	

生徒指導の機能を生かした授業
①一人一人の学びを生かす ②自己決定による自力解決の場 ③分かった・できたことの共有 ④評価と個々への補充・発問

授業の質的改善
授業改善アクションプラン10
①まとめと整合性のある学習課題の設定 ②明確な見通しを持たせる場の工夫 ③自力解決の場を設定と実態の把握 ④考えを交流する場の位置づけ ⑤話し合いのコーディネートの充実 ⑥構造的で明確な板書の工夫 ⑦児童の思考を活性化する明確な発問 ⑧適切な評価による学習展開の工夫 ⑨ 学習課題と整合性のあるまとめ ⑩ 1問以上の習熟の時間の位置づけ

資料②

PDCAサイクルを生かした授業の改善

実践・授業改善	A 課題の明確化と改善 陥没点の補充指導の実施 教師の指導の癖の改善 次年度の教育計画の改善 年間指導計画等への反映	<p>PDCA サイクル</p>	P 課題改善のための計画の構想 指導計画、指導方法、板書計画、評価方法の立案
	C 結果分析による実態把握 各種テスト、学力調査の分析 誤答分析による児童の実態把握 教師の指導の癖の把握 学校評価による成果と課題の明確化		D 計画に基づく指導の実践と修正 各教科等における指導の実践 ショートスパンでの評価と修正 多様な研修の工夫と指導力向上 保護者・地域との連携

資料③

授業外での実践	授業周辺における手立て
	学力向上タイムでの積み上げ ◇ 学力向上タイムの継続的な実施 (火曜・木曜12:55～13:05) 10分間 ・国語・算数の学習内容の習熟 ※繰り返しドリル学習・プリント学習 ※定着確認シート・活学力育成シート
	家庭学習の充実 ◇ 家庭学習の習慣化 ・(学年+1)×10分 ・自主学習の習慣化 ◇ 家庭学習の仕方の習得 ・自主学習コンテスト ・学校の学習とのリンク
	読書活動の充実 ◇ 読書習慣の形成 ・読書タイム(12:55～13:05) ・読み聞かせ ◇ 家読・ノーマディアの実践 ・毎週水曜日の家読・ノーマディア

学力向上

めざす児童像

ゆめにむかって、学び続ける子ども

授業改善チェックシート

矢祭町立矢祭小学校

A : よく努力した

B : 努力した

C : 努力が足りなかった

D : 努力できなかった

段階	ポイント	チェック項目	確認			
			1週	2週	3週	4週
課題把握	○魅力ある学習課題の設定	① 児童の課題意識を高める、子どもにとって魅力と必然性のある学習課題を設定するよう努めているか。(○○はどうすればできるか? など~)				
	○明確な解決の見通し	② 答えの見通し、どんな手順でどうやって解決するかの見通しを持たせるよう努めているか。				
課題解決	○課題解決のための学習形態	③ 自力解決の場を設定し、児童が自分で考える時間を位置づけるよう努めているか。				
	○学び合い・発問・板書の工夫	④ 傾聴・話し合い・学び合いなど、児童の自力解決の経過と結果を交流する場を位置づけているか。(ペア・グループ・全体)				
	○教師のコーディネート	⑤ 児童の思考が広がったり深まったりするよう問い返し、話し合いのコーディネートに努めているか。(予想、再生、要約、発見、推測、共感、補助)				
		⑥ 子どもの思考の足跡が分かる構造的な板書となるよう努めているか。				
		⑦ 何を考えたらよいか、何を答えたらよいかを明確な発問をするよう努めているか。				
まとめ	○まとめ	⑧ 一人一人を学びを適切に評価し、前に戻って指導するか習熟に進むかを判断するよう努めているか。				
	○評価と習熟	⑨ 学習課題と整合性のあるまとめをするように努めているか。				
		⑩ 1問以上の習熟の時間を位置づけるよう努めているか。				

適切で必然性のある学習課題を設定できれば、子どもは何を解決するのかが分かり、学習意欲に火がつけます。また、課題解決において子どもと教師との1対1の問答から抜け出すには、みんなが関わって学習する学級風土づくりと、話し合いのコーディネート力につきます。まとめでは、何ができるようになったかをきちんと振り返り、確かめるための習熟の時間を確保しましょう。

学力向上グランドデザインマネジメントワークシート

【別紙様式】

令和元年度学力向上グランドデザインマネジメントワークシート

(矢祭町立矢祭小) 学校

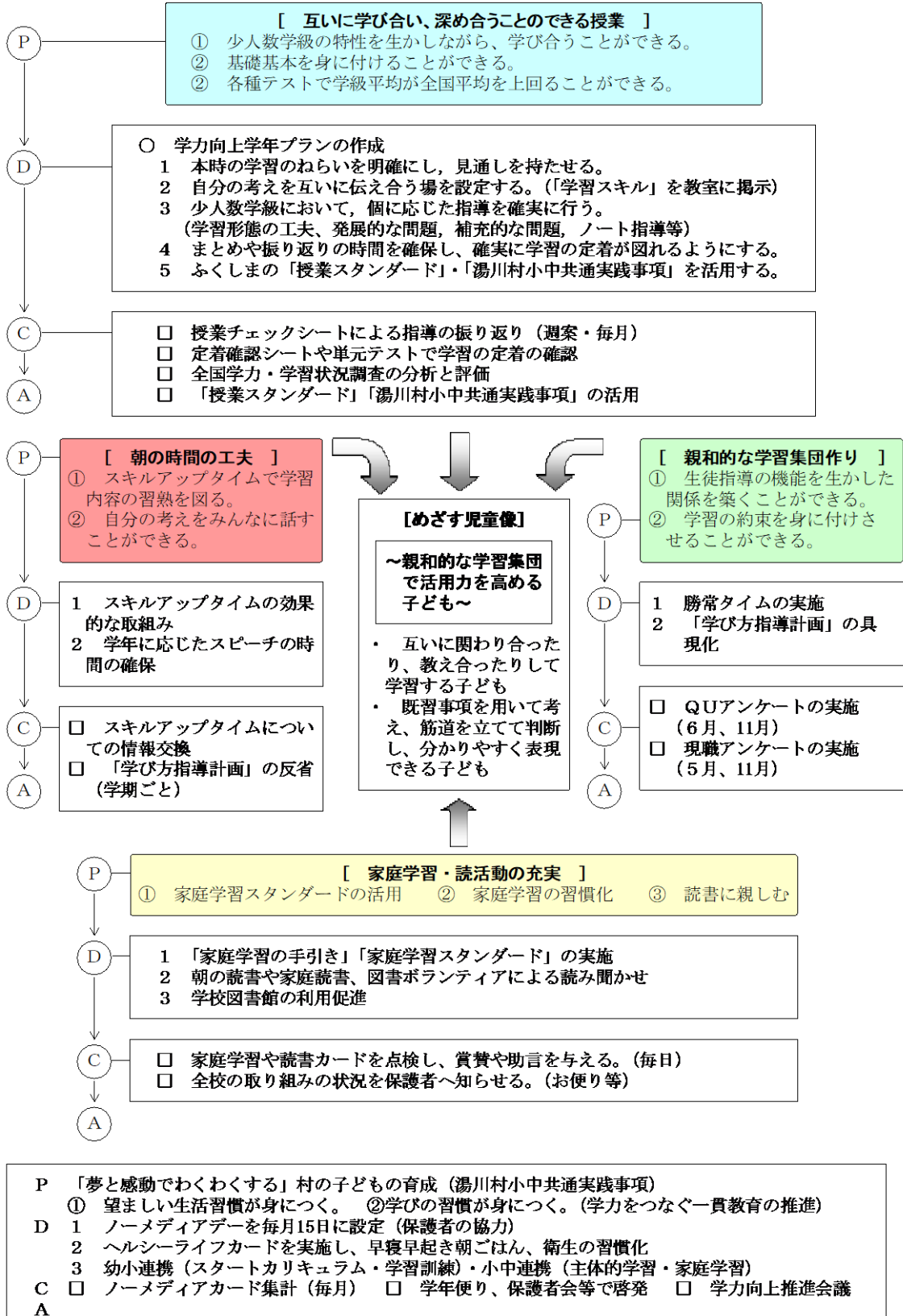
Research	Plan	Do	Check	Action	Check	Action	Check	Action	成果と課題
昨年度の課題	計画のキーワード	実行(何をどうする)	評価・結果	改善策	評価・結果	改善策	評価・結果	改善策	
<p>本校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学力及び学習意欲に個人差が見られる。 ● 互いに伝え合うことを通して得た知識や技能を活用しながら、さらに自身の考えを深めていく力が十分に身につけていない。 	<p>今年度の共通理解</p> <p>① 児童の学習意欲を育て、主体的に学ぶための学習環境を整備する。</p> <p>② 児童の基礎基本の確実な定着と活用力の向上を図る。</p>	<p>共通実践事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習記録徹底のための確認シートを活用して、学級の実態把握に努める。 ○ 「わかる、できる」授業の実践を通して、児童の学びに向かう力を育成する。 ○ 「何を学ぶのか」「何が分かったのか」「何が明確な授業を構築する。」 ○ 学習内容と児童の学習能力を捉えた適切な学習合いの場を設定する。 ○ 集団思考における話し合いのコーディネートを実施させる。 ○ 理解を深めるための話す・書くアウトプットの場を位置づける。 	<p>6～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週「授業改善チェックシート」による授業の振り返りを行ってきたこと ・ 教師の授業づくりに対する意識が高まってきた。 <p>評価・結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の疑問を大切にしたい学習課題を意識して設定してきたことで、児童の学びに向かう意欲が高まってきた。 ・ 「授業スタンダード」にこだわらないうちで児童の実際の合っていない授業になってしまっている度々あった。 	<p>8～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックごとに互見授業を実施し、自己の課題を明確にしていく。 ・ 教材の視覚化など、児童の理解を促していくための工夫が必要である。 ・ 「自分の考えを伝えたい」「友達との考えを知りたい」という思いを生み出せるよう、学習課題にしかけをもたせる。 ・ 「授業スタンダード」をベースとして、教師がもつ課題を解くためのポイントを絞った授業づくりを進めていく。 <p>改善策</p> <p>12～1月</p>	<p>10～12月</p> <p>評価・結果</p> <p>12～1月</p>	<p>改善策</p> <p>12～1月</p>	<p>12～1月</p> <p>評価・結果</p> <p>12～1月</p>	<p>改善策</p> <p>2～3月</p>	
<p>本校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習を進んで行う習慣が十分に身につけていない。 ● 児童の読書量が少なく、文章を読むことに慣れていない。 	<p>今年度の共通理解</p> <p>① (学年+1)×10分を基本とした家庭における学びのサイクルを構築する。</p> <p>② 読書活動への興味・関心を高め、読書習慣を形成する。</p>	<p>共通実践事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習スタンダード」を活用し、家庭学習の習慣づくりに取り組む。 ○ 学習習慣を見直し、個に応じた自主学習の仕方を身につけさせる。 ○ 教職員・ボランティアによる読み聞かせなど読書タイムを効果的に実施する。 ○ 家庭と連携した読書・ノートメデアを実施し、読書活動を推進する。 	<p>6～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の授業参観・懇談会の際に、各家庭に「家庭学習の進め方」を配付して周知を図った。 ・ 給食後の読書タイムといつでも読書をできる読書タイムを確保して実践することができた。 <p>評価・結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書参観の際に、各家庭に「家庭学習の進め方」を配付して周知を図った。 ・ 給食後の読書タイムといつでも読書をできる読書タイムを確保して実践することができた。 	<p>8～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の家庭学習の状況を把握し、学年単位などで適宜家庭での協力を得るよう努めていく。 ・ 学年の読書量(多読賞)を意識させたり、担任や学校司書から図書紹介をして読書意欲を喚起していく。 <p>改善策</p> <p>12～1月</p>	<p>10～12月</p> <p>評価・結果</p> <p>12～1月</p>	<p>改善策</p> <p>12～1月</p>	<p>12～1月</p> <p>評価・結果</p> <p>12～1月</p>	<p>改善策</p> <p>2～3月</p>	

授業

授業周辺部

学力向上グランドデザイン

平成31年度 湯川村立勝常小学校 学力向上グランドデザイン



学力向上グランドデザイン

平成31年度 学力向上グランドデザイン

南会津町立南郷小学校

教師の願い

- 基礎学力の向上
- 授業における学習規律の定着
- 家庭学習の習慣化

教育目標

ひびき合い、ともに高まる南郷の子
心豊かな子 よく考え進んで学ぶ子 たくましい子

◇【本校の学力上の課題】
基礎的な学習内容は、十分に付いている。

- ◆国語の「話す・聞く」に課題
- ◆発展的な内容、活用問題に課題

目指す児童像

確かな学力を身につけ、自分らしさを発揮し、ともに高まろうとする子ども

31年度の重点課題とその取り組み

授業の改善と基礎学力向上

- ◎**確かな学力をつけるための授業の改善・工夫**
 - ・「授業スタンダード」を基盤にした授業づくり（「スタンダードチェック表」「先生の授業をチェックしてください」の活用）
 - ・読解力の向上を図る指導の工夫
 - ・各種テストの結果分析、課題の明確化
 - ・よい聞き手・話し手の育成、コーディネートの向上
- ◎**基礎基本の確かな定着**
 - ・学力向上タイム・チャレンジタイムでの補充・発展
 - ・小テスト、学期末テストの実施（合格まで徹底活用）
 - ・活用力育成シートの活用（授業で実施）
 - ・各種調査問題の有効活用
- ◎**読書に親しむ活動の工夫**
 - ・「ブックリスト」「読み聞かせ」による多様な機会の設定と読書タイムを通じた継続的な読書指導

アンダーアチーバー 0人！ 単元テスト平均90点以上

児童の願い

- 学習がわかるようになりたい。
- 先生や友達に認めてほしい。
- 楽しい学校生活を送りたい。

保護者の願い

- 「わかる授業」の展開・基礎学力の向上
- 伝える力の向上
- 児童と教師の信頼関係の構築
- 地域の良さを生かした学習

学習の基盤・心の教育

- ◎**望ましい人間関係の構築と南郷のよさを実感し、よりよい校風を創る**
 - ・一体感の醸成、よさを認め褒める指導
 - ・「Q-U」「学級経営スタンダード」の活用（満足率70%以上、不満足率10%以下）
 - ・思いやりや親切を言葉と行動で実践し、共感的に理解し合える児童の育成
 - ・道徳科の授業の充実
 - ・地域のよさを進んで学び、発信する力の育成
 - ・朝の運動タイムを通じた継続的体力づくり
 - ・望ましい礼儀・作法の定着（あいさつ・返事・時と場に応じた言動）
 - ・がんばる姿の賞賛、励まし合い、支え合う意識の高揚（ありがトマトの活用）

不登校0！ いじめの未然防止！

家庭学習の習慣化

- ◎**保護者との連携による家庭学習の定着**
 - ・「家庭学習スタンダード」「家庭学習の手引き」を活用し、時間のめやす（学年×10分）や学習の進め方について提示
 - ・「家庭学習チェックカード」を活用して、個々の児童の家庭学習の状況を把握。
 - ・家庭学習を見直す機会の設定
 - ・学期1回の家庭学習強化週間の実施
 - ・自主学習ノートを廊下に掲示し、みんなで見合うことができている環境づくり（自主学習ノート展の実施、見本ノートの展示）
 - ・家での読書を奨励（週末読書・親子読書）
 - ・メディアアコンテロールの推進と家庭のルール作りの啓発

家庭学習の定着率95パーセント以上！

南相馬市立大甕小学校

平成31年度（令和元年度）「授業改善の重点」

基礎基本の定着と活用力の向上～全国トップレベルの学力を目指して～

1 重点的に取り組むべき課題

- (1) 低学年 …話し合い・学び合いを通じ、児童生徒相互啓発するような授業の設定
 (2) 中・高学年…目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする活動の指導

2 改善に向けた具体策

1 話し合い・学び合いを活かした授業を行う

〈話し合いの活動の場を設定する〉

- ・相手に伝わるような話し方・相手の考えを理解しようとする聴き方の指導を徹底する
- ・学習形態（ペア・グループ等）を工夫して意識的に取り入れる。

2 課題設定の工夫をする

〈子どもに見通しを持たせる〉

- ・ICT活用した具体的な資料の提示
- ・日常性のある資料を準備することで課題意識を持たせる。

3 書く力を育てる

〈振り返りを書く時間の確保〉

- ・まとめと振り返りの時間の確保のために、授業の展開の内容を精選する
- ・めあてや条件に合った、まとめや振り返りを書かせる指導。

原三中ブロックにおける授業改善・家庭学習の充実に向けた改善策について
学力向上部

〈令和元年度第1回域内学力向上推進研究協議会より〉

- ① 「自己マネジメント力育成シート」を5・6年生での継続的に行う。
 → 現在、縦断中、西階段階り場に掲示、計画・反省の内容は、下の学年にも参考になりますので、学級の児童にも目を通すようお願いください。
- ② まとめ・振り返りの時間の確保（マグネットでの掲示等）

福島県・南相馬市の「まとめ・振り返り」の捉え方

「授業スタンダード」	<p>「何を学習したか」を明確にする。「どのように学習してきたか」を振り返る。</p> <p>A 「見方・考え方」を伴った理解の深まり 「今日は〇〇という学習をして、□□というきまりに気付いた！」 B 自分の成長や変容、友達とのよさや集団で学ぶよさなどの気付き 「〇〇さんのあの考えは、すごいなあ！」 C 充実感、達成感、有能感などの学びの手応え 「練習問題を解いたら、〇〇の使い方がよく分かった。」 「今日学んだことは、こんなところにも使われているんだね。」 「明日はもっと上手に説明できるようになりたいな。」 D 新たな課題の発見 「もし、〇〇だったらどうなるの、家で調べよう。」 「この時は、一体どうなるの、自分で解いてみよう。」 → 家庭学習への繋がり</p>
「新・南相馬の授業スタイル」	<p>「書く振り返り」…本時の学習を通して感じたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。感想…本時の学習内容を振り返り、考えたり感じたりしたことを自由に記述する。作文…本時の学習を振り返り、考えたり感じたりしたことをテーマや条件に合わせて作文する。</p> <p>「解く振り返り」…本時の学習を通して身につけたスキルを活かして、適用問題に取り組む。適用…本時を振り返り、補充・発展できな練習問題に取り組む。</p> <p>※必要に応じて、自己評価（評価表に記号等を記入）も組み合わせる。</p>

上記の内容を受けて、振り返りの視点を作成して、学級で活用していただければと考えました。裏面へ…秋田県の振り返りをもとに小高小学校へ作成・活用している振り返りの視点です。

月 年 番 名前()

自己マネジメント力を身につけよう!!

自己マネジメントとは?

Research 自分を知る… 自分を見つめ直し、得意なことや苦手なことを把握する。
 Plan 計画する… 見つめ直した結果、課題になったことに合う目標や計画を立てる。
 Do 自ら学習する… 計画にそって、自分から進んで学習に取り組み。
 Check 確かめる… 学習した内容や結果、取組の進み方を取り戻す。
 Action 見直す… 学習の内容や方法を見直し、修正する。(数回シートの活用)

1 家庭学習の進捗(高学年)… 配布されている「家庭学習の手引き」を見て確認しよう。

2 家庭学習の計画と反省 ☆1週間分の記録をしよう☆

予定する内容		実際に取り組んだ内容	
日	時間	学習内容	宿題の内容
月	90分	理科(たしかめよう)	計画7/18 漢字スキル18 算数「いさる」
火			
水			
木			
金			
土			
日			
合計			

←各計時間を記入する。

振り返り

自分
反省者

担任

合計

「自己評価」の概要 取組の進捗状況に応じて評価しよう
 ◎→E以上、○→D～B、△→C以下

3 保護者の協定書へ
 福島県では、「家庭学習スタンダード」(配布済み)を活用して、子ども・保護者・教師が一体となって家庭学習に取り組む。子ども達に自己マネジメント力を養うことを推進しています。大甕小学校では、小学校高学年のうちから中学校進学を見据え、子ども達が自分の課題を見つめ、改善する機会を設定することで、自己マネジメント力の習得を確実にしたいと考えています。お忙しいとは思いますが、お子さんが立てた学習の計画や実施内容、反省等を掲載した、「保護者」の欄に署名や捺印の一言を書いていただくとお子さんのやる気が高まりますので、協力をお願いします。

理想とする授業

<p>教師の働きかけ</p> <p>問題提示を工夫すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の問題をベースに工夫した問題 考えれば答えに手が届きそうな問題 既習事項を生かして解けそうな問題 興味や必要感を持つ問題 (ゲーム化、ストーリー仕立てなど) 提示の工夫 (視覚的に訴える 誰でも問題場面を理解できる) <p>見通しの持たせ方を工夫すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> 上位の子も下位の子もみんな同じ土台に立てるように 最低限そろえるべきところはそろえる <p>めあてって…?</p> <p>【あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの疑問やつぶやきをめあてに <p>【なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が課題解決の方向に向かっていればなくてもよい <p>課題解決の場や話し合いの場を工夫すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決台ペア・グループは全体 できる子とできない子の差をうめるための工夫 コース別学習 話しやすい人、聞きたい人と話し合う 対話させるためのツール、具体物・半具体物の準備 	<p>めざす児童の姿</p> <p>主体的・対話的に学び合う姿</p> <p>全員が興味を持つ</p> <p>おもしろそう!</p> <p>やってみよう!</p> <p>うーん、難しそう…でも、何とかしたい!</p> <p>全員が見通しを持つ</p> <p>前に学習したことを使ってできよう</p> <p>ブロックを使おう</p> <p>図をかいてみよう</p> <p>教直線を使って…</p> <p>式と言葉をつなげて…</p> <p>できるかもしれない!</p> <p>全員が自分の考えを表現できる</p> <p>一緒に考えよう!</p> <p>どこまで分かる?</p> <p>この方が簡単だよ</p> <p>この方が分かりやすいよ</p> <p>どうやったらできるか教えて</p> <p>どういうこと?</p> <p>もう1回教えて!</p> <p>これでいいのかな?</p>
---	--

<p>「どうか!」</p> <p>「なるほど!」</p> <p>「こんな考えもあったんだ!」</p> <p>「メモを取りながら聞く」</p> <p>発言をつなぐコーディネートって…?</p> <ul style="list-style-type: none"> 意図的指名・話しすぎない 肯定しない(児童に肯定させる) ゆさぶりをかける・反例を出す 間違ってもいい雰囲気作り 理解できているかどうか確認 発表会にならないように <p>「えっ?なんで、なんで?」</p> <p>「もう1回言ってみて」</p> <p>「本当にこれでいいのかな?」</p> <p>「この図を式にできなかな?」</p> <p>「式の意味を説明できなかな?」</p> <p>まとめとして…</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの言葉で 次の学習に生かせるものを積み重ねていく 練習問題を解いてから言葉でまとめる方法もあり 言葉でまとめるだけではなく、練習問題をまとめとしてもよい 次の学習の見通しを持たせる 新たな疑問や問いを拾い上げる <p>「この先はどうなんだろう?」</p> <p>「他の場面でも使えるかな?」</p>	<p>「友達の考えを聞いて、気づいたよ」</p> <p>「分かった! 教えて!」</p> <p>「ここまでいいですか?」</p> <p>「指し示しながら説明する」</p> <p>「書き加えながら説明する」</p> <p>「友達の考えを説明できる」</p> <p>「友達の発言につなげて説明できる」</p> <p>「こうだったらどうかな?」</p> <p>「となりの人ともう一度確認してみよう」</p> <p>「全員が達成感を味わう」</p> <p>「分かった!」</p> <p>「楽しかった!」</p> <p>「解けてスッキリした」</p> <p>「難しかったけれど、おもしろかった」</p> <p>「次の時間の問題も解けようだよ」</p>
---	--

1 授業につながる教材研究の工夫

(1) 教科書の比較

6つの教科書会社「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」「日本文芸出版」の教科書を以下の点について比較した。

- 取り扱う素材
- 素材の取り扱われ方
- 指導回数
- 指導時期
- 指導方法 等



各教科書会社の教科書を比較したことで、どの教科書も共通して大切にしている部分や、指導方法や指導過程の違いによる子どもの思考の進み方などについて理解を深めることができた。



2 授業につながる資料の発信

(1) 「この本、いかが?」

授業づくりに役立つような文献や資料を探し「この本、いかが?」として発信した。

MUSU部 この本、いかが?②

【スペシャル企画】算数科授業 成功の極意 宮本 博規 著 明治図書 1,760円(9.6年以前の購入価格)

「ん、んん、N社(教科書)と『おもしろ算数』という雑誌で、ゲームをしながら子ども達が楽しく算数を学習している姿を見た。こんな授業を考えた先生がいるのだと。面白い、ワクワクしました。しばらくして、『算数で『あ』の物の名前をたずねる本』が出版されました。それから、私も『この算数の内容は、ゲームで遊ばないかな?』と考えるようになりました。すると、子ども達に理解させたい算数の内容、よく考えなければなりません。算数の面白さを伝えること、という授業は、1つだけなのですが、実に楽しかったです。そして、この本は、ゲームがメインですが、算数の本にわたる、宮本先生の『算数授業作りの最大成』です。算数に自信を持つことができています。オススメです!

校内研修において、一人一授業や互見授業週間などの機会を設定し、共通理解のもとに生徒の学力向上に向けた授業改善について学び合うことができている。また、日々の授業においては授業前のウォームアップ、付箋を活用した授業や家庭学習との連携などをおして学習内容の確実な定着を図っている。

研修の機会の確保

- 一人一研究授業
→ 教科部会の活性化
- 互見授業週間
→ 教師同士が学び合う文化の醸成

意図的な「記述」の場面の設定

- ノート指導の徹底
→ アウトプットする場面の設定
- 活用力育成シートの活用
→ 表現の仕方の学習
- 付箋の活用
→ 日常的なメモ、備忘録としての活用

数学科におけるウォームアップの工夫

- ① ねらい
 - ・ 基礎的な内容の定着と暗算力の向上を図る。
 - ・ 協働的な学びのための雰囲気づくりをする。
- ② 実施方法
 - ・ ペアで実施し、時間や正答数を測定する。
 - ・ 一方が問題を口答し、一方が正誤を伝える。
- ③ 実施内容例
 - ・ 正負の数 ・ 文字と式 ・ 比例と反比例
 - ・ 立体の表面積や体積 ・ 一次関数 など

yをxの式で表しなさい。 NO1.

① yはxに比例していて、次のような表になる。	② yはxに反比例していて、次のような表になる。																																								
<table border="1"> <tr><td>x</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>y</td><td>-8</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr> </table>	x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	y	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	<table border="1"> <tr><td>x</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>y</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>12</td><td>∞</td><td>-12</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-3</td></tr> </table>	x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	y	3	4	6	12	∞	-12	-6	-4	-3
x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
y	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8																																
x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
y	3	4	6	12	∞	-12	-6	-4	-3																																
③ yはxに比例し、x=7のときy=35である。	④ yはxに反比例し、x=-6のときy=-8である。																																								

資料編へ

学習集団としての機能の向上と図書館教育の充実

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた表現力の育成のために、単元で育成する表現力を具体的に焦点化して単元構想するとともに、学習集団としての機能を高め、学習活動の工夫に取り組んでいる。また、図書館教育の充実のために各学年、各教科等と学校図書館との連携を強化している。

表現力の育成

DO

- アクティブ・ラーニングを意識した授業展開
- ・ 課題解決的な学習活動を位置付けた「単元構想表」の作成
- ・ 「学習のルール」の徹底と学習集団としての機能の向上
- ・ 考えを自分の言葉で発表・表現する学習の場の設定
- 読書活動の活性化による語彙の獲得
- ・ 朝の読書タイム、授業での図書館の利用

ACTION

- 週案で授業を振り返り、日々の授業改善
- 課題を職員会、学校評価委員会等で共有

図書館教育の充実

- 全校一斉読書の実施
 - ・ 「読書デー」を利用し全校生が同じ本を読む
 - ・ 読後に感想をまとめ国語科担当に提出
- 伊達中学校読書感想文コンクールの実施
 - ・ 課題作品を選定し、国語科の時間に書く。
 - ・ 国語科と図書委員会が中心となり、年3回（6月、11月、2月）実施。
- 授業での図書館利用の促進
 - ・ 各教科各学年で年1回以上の利用
 - ・ 学校司書を活用し必要な資料の収集

平成31年度 図書館教育の充実のための各学年・教科等との連携強化について

1 目的

- (1) 読書の質の向上、読書力、文章力の向上を図るため、「読書デー」をさらに推進させ、生徒の読書活動の活性化を図る。
- (2) 学校図書館と各学年、教科等との連携を強化することにより、生徒の「学びの質」の向上を目指す。

資料編へ

「たて」「よこ」のつながりを重視した教育活動の実現

郡山市立西田学園義務教育学校

本校は、2018年度に県内初の義務教育学校として開校した。義務教育学校としての先行研究が少ない中、「たて」「よこ」のつながりを重視した特色あるカリキュラムを作成したり、小中教員による子どもの姿で学びを語り合う校内研修を推進したりするなど、義務教育学校のメリットを最大限に生かした教育活動を展開している。

「たて」部会と「よこ」部会の連携による授業づくり

「たて」部会: 該当教科の専門性や系統性の視点から検討
 「よこ」部会: 他教科や日常生活とのつながりから検討

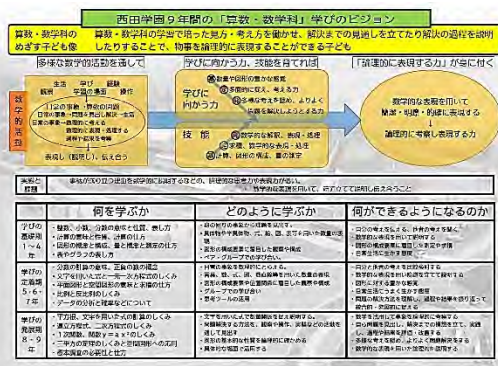
<例> 5年算数科の授業の場合(事前検討会参加者)

「たて」部会: 1~9年の算数・数学担当者

「よこ」部会: 同ブロック(5~7年)の他教科担当者

9年間の学びのビジョンに基づく授業実践

- 基礎期の1~4年生、定着期の5~7年生、発展期の8~9年生の育成すべき資質・能力の明確化
- 全教科、領域ごとに作成



5年生からの特色ある取組

- 全教科において教科担任制を導入
- コース学習(各学期に3時間程度)の実施
- 中学部と同時期に定期テストを実施

資料編へ

教職員の指導力の向上と授業の質的改善

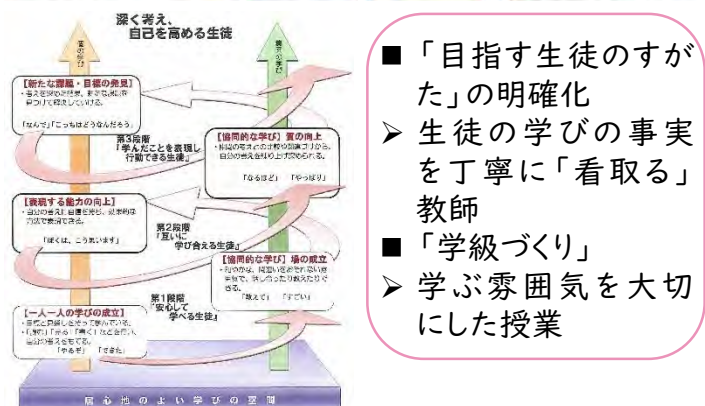
須賀川市立西袋中学校

各種調査のデータを基に生徒の実態把握に努め、授業研究会をとおして指導力の向上と授業の質的な改善を目指している。授業交流による小中連携の強化や外部講師を招いた研修などにより教職員同士が学び合うことで授業改善に努めている。

授業改善・充実に向けた取組



実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査の分析と課題の把握 → 活用力育成シートの計画的な利用
校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「居心地のよい学びの空間」づくり ・ 学び合いを中心とした授業 ・ 「一人学び」の指導 ・ 「目指す生徒のすがた」を明確にした授業 ○ 外部講師を招いた研修 ○ 教科の枠を超えた授業研究会
小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区の小中一貫教育の推進 ○ 授業研究会での交流



- 「目指す生徒のすがた」の明確化
- 生徒の学びの事実を丁寧に「看取る」教師
- 「学級づくり」
- 学ぶ雰囲気大切に授業

資料編へ

「意欲的に学び続ける生徒の育成」を研究主題とし、各種調査の結果や、授業に対しての生徒からの評価アンケートを分析し、課題を共有して授業改善に努めている。また、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指し、「読解力・表現力向上トレーニング」に取り組んでいる。

生徒と共につくる授業

- 「発問」「指示」「板書」に関するアンケートを実施
- ・ 「授業スタンダード」と、生徒からのアンケート結果を基に授業の質的改善に取り組んでいる。

生徒の実態把握

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ ふくしま学力調査
- ・ 授業に対する生徒アンケート

家庭学習の充実

- マネジメントシートの活用
- ・ 計画を立て、取組を振り返る。
- 自学添付シートの活用
- ・ 家庭学習の悩みに対応するため、課題プリントを各教科で配付。

言語能力の育成

- 「読解力・表現力向上トレーニング」の取組
- ・ 新聞記事を読んで、大事だと思う文章にマーカーでチェックを入れた後に要約をする。
- ・ 新聞記事を読み、内容に対する自分の考えをまとめ記述する。
- ・ 教職員がチームを作って添削し生徒へフィードバックする。全職員が生徒の言語能力の実態を、リアルタイムで把握することができている。

[資料編へ](#)

「個人→共有化→言語化」を重視した授業展開の継続と生徒の実態把握

喜多方市立会北中学校

「深い学び」の実現に向け、「授業スタンダード」を基盤としながら、個人→共有化→言語化(発表・書く)といった授業展開を重視した授業実践に全教科で取り組んでいる。また、生徒の実態を全職員で把握・共有化するなど、小規模校の強みを生かした、きめ細かな指導を展開している。

「深い学び」の実現に向けて

- 「話し合い活動」「個における振り返り」を全教科で共通実践している。
- 「話し合い活動」が効果的に行われるために、個→集団→個の流れを授業に必ず組み込むように共通理解・共通実践を図っている。
- 振り返りは、自分の言葉で書いてまとめさせる活動を重視している。

各種調査の結果分析を生かす

- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査等の結果分析を基に、生徒一人一人の学力の実態を校長をはじめ、全職員で共有して指導に当たっている。
- 分析資料等は、ファイリングし、先生方がいつでも活用できるようにしている。
- 各種調査等の問題は先生方も解くことで、生徒たちの実態把握や授業改善に役立てる。

その他の取組等

- 生徒指導の機能を生かした学級の基盤づくり・授業づくり
- 生徒向け講演会の実施(塾講師、地域人材等を講師として、学びの本質について考える機会に)
- 交換ノート(自主学習ノート)…1冊のノートを校長と生徒でやりとりしている。生徒にとっては2週間に1回ノートが回ってくる。校長が生徒に合った勉強法などをコメントして返却。生徒同士の刺激にも。

少人数のよさを生かし、学級経営の充実を基盤に、個に応じた支援のための環境を整えている。また、互見授業や先進校視察などを通して指導力の向上に向けた研修を充実させている。特に、数学科では、学び方の学習、基礎・基本の確実な習得、振り返りの設定など、学習内容の定着に向けた取組を展開している。

個に応じた支援のための環境整備

- 「分からない」が言える学級づくり
- 授業内容の理解の程度に合わせた家庭学習
- 充実したICT環境
- 空き教室を利用した学習室の開放

指導力の向上に向けた工夫

- 学力向上計画に基づく計画的な学習支援
- ICTを活用した授業
- 日常的な互見授業
- 先進校視察による研修の充実

数学科の授業における工夫

オリエンテーションで学び方の指導

数学 オリエンテーション	
1	<p>数学の目標</p> <p>① 基礎・基本をしっかりと身につけよう。 ② 解決への見通しを持って課題に取り組もう。 ③ 重要な問題に進んで取り組む、より確かな学力を身につけよう。</p>
2	<p>学習の心構え</p> <p>わからないところはわかるまで食い下がり、必ず解決しよう。</p>

授業ははじめのトレーニング

- ペアで問題を出し合う
 - ・ 計算問題
 - ・ 定義の復唱 等

ICTを活用した授業

- ほぼ毎時間使用
 - ・ 課題提示
 - ・ 思考の可視化
 - ・ 適用問題
 - ・ テストの振り返り 等

振り返りの設定

- 自分の学習進度に合わせて練習問題に取り組む。
- 学習チェックシートに授業での学びを記入する。

[資料編へ](#)

生徒が相互啓発する授業と計画的な家庭学習の習慣化

国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させ、根拠を基にした判断力向上のために、各教科等で理由や考えをまとめる時間を確保するなど、生徒が啓発し合う授業を展開している。また、SPL（スタディプランログ）や授業と家庭学習との連動により自らの学習を調整する力を高めている。

国語科の実践

- 学習の手引きの作成
- 書く活動の工夫
 - ・ 毎時間のノート添削
 - ・ 書き方や答え方の型の指導
 - ・ 字数と時間の制約
- 意見をもたせるための工夫
 - ・ 意見や根拠が複数になる発問
 - ・ 根拠を明確にした意見の交流
- 振り返りの工夫
 - ・ 一枚ポートフォリオやチェックシートの活用
- 活用力育成シート、定着確認シートの活用
 - ・ 添削後個別指導を実施

組織的な取組

- 現職研修部の毎月の振り返りと有効な手だての共有化
- 国語・数学・英語の基礎学力テストの実施
 - ・ 事前に配布したプリントから出題する
 - ・ 合格（80点以上）するまで再テストを実施している
- 各種コンクールの全員参加
- 新聞（全国紙・地方紙・英語）を活用した取組
 - ・ 新聞の読み方と本日の記事を掲示している
 - ・ 3年生は、興味をもった記事を紹介し、コメントをもらっている
- 学習委員会による定期テスト予想問題作成

家庭学習の質の向上

- SPL（スタディプランログ）の取組
 - ・ 帰りの短学活で家庭学習の計画を立てる
 - ・ 取組の偏りが無いよう担当が助言する

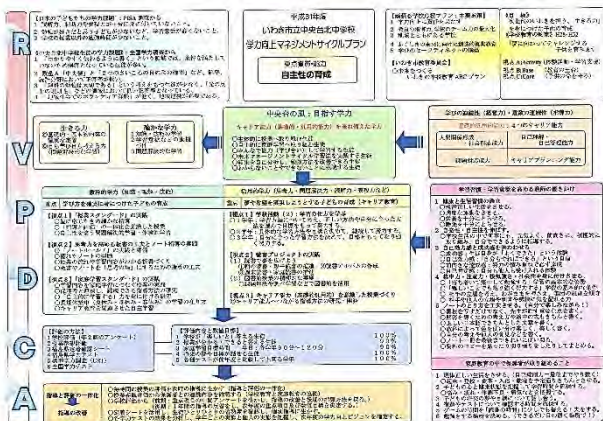
キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善

いわき市立中央台北中学校

キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を意識した授業を実施することにより、授業の質の向上につながっている。また、教科の枠を超えた互見授業を日常的に実施している。キャリア教育を基盤に、「記述」や「他者との関わり」の機会を数多く教育活動全体で展開している。

キャリア発達を基盤とした授業づくり

- ① キャリア教育アンケートによる実態把握
- ② キャリア発達を促す授業の創造
- ③ 小学校、保護者・地域社会との連携



「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善

- 実態把握**
- 年に2回、キャリア教育アンケートを実施
 - データを基に生徒の変容を把握
 - 教育活動全体で育成
- 単元計画への位置付け**
- 学習指導案の中に「単元の中で高めたい基礎的・汎用的能力」の欄を設け、学習過程の中でその能力を高めることを意識する。
- 指導方法の改善**
- キャリア能力をカードにして黒板に掲示
 - 教科部会や校内研修で互見授業

資料編へ

【関連資料】

・ふくしまの「授業スタンダード」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902203.pdf>

・ふくしまの「家庭学習スタンダード」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902205.pdf>

・ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/312242.pdf>

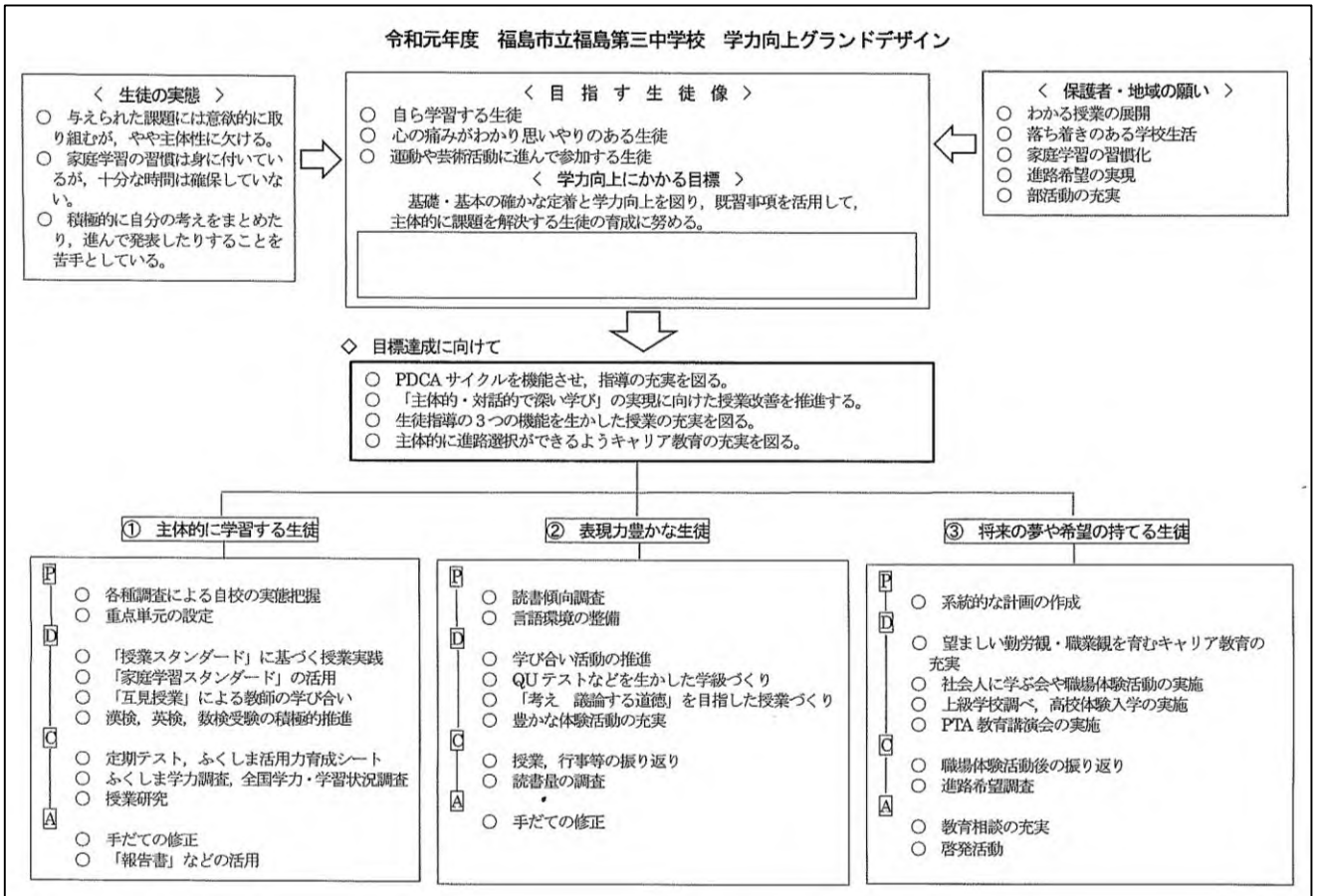
・ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集vol.2

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/370507.pdf>



学力向上グランドデザイン

令和元年度 福島市立福島第三中学校 学力向上グランドデザイン



数学科のウォームアップの工夫

yをxの式で表しなさい。

NO1

① yはxに比例していて、次のような表になる。

x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4
y	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8

② yはxに反比例していて、次のような表になる。

x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4
y	3	4	6	12	x	-12	-6	-4	-3

③ yはxに比例し、x=7のときy=35である。

④ yはxに反比例し、x=-6のときy=-8である。

⑤ yはxに比例していて、次のような表になる。

x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4
y	32	24	16	0	0	-16	-24	-32	

⑥ yはxに反比例していて、次のような表になる。

x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4
y	-7		-14		x		14		7

⑦ 原点を通る直線のグラフが(-2, -6)を通る。

⑧ 双曲線のグラフが(4, -5)を通る。

⑨ yはxに比例し、x=-3のときy=3である。

⑩ yはxに反比例し、x=-3のときy=3である。

⑪ 原点を通る直線のグラフが(-9, 3)を通る。

⑫ 双曲線のグラフが($\frac{1}{3}$, 6)を通る。

図書館教育の充実のための各学年・教科等との連携強化について

1 目的

- (1) 読書の質の向上, 語彙力, 文章力の向上を図るため, 「読書デー」をさらに推進させ, 生徒の読書活動の活性化を図る。
- (2) 学校図書館と各学年, 教科等との連携を強化することにより, 生徒の「学びの質」の向上を目指す。

2 内容

- (1) 全校一斉読書の実施 . . . 「読書デー」を利用して, 全校生が同じ作品を読む。

(国語科・図書館教育)

(読書の時間, 国語科授業, 宿題)

※ 全員に印刷して配付 → 感想記入 → 国語科担当に提出

第1期 5月中(連続した5日間)

第2期 10月中(連続した5日間)

第3期 1月中(連続した5日間)

- (2) 伊達中学校読書感想文コンクールの実施(国語科・図書委員会)※ 全校生参加

- 課題作品 . . . 全校一斉読書の中から一つ国語科で選定する。

国語の時間に書く。

- 字数 . . . 600字以内(専用の原稿用紙を配付)

- 審査 . . . 各学年4点程度選抜(各学年国語科)

→ 学年・名前を伏せて掲示もしくは配付する。

→ 全校生・全教員による投票・優秀作品を選ぶ

- 表彰 . . . 最優秀 1点 優秀 2点 優良 3点 佳作 6点

※ 課題作品および原稿用紙の準備 . . . 図書館教育

一次選抜 . . . 国語科

投票準備・集計・表彰 . . . 図書委員会

第1回 . . . 6月 第2回 . . . 11月 第3回 . . . 2月

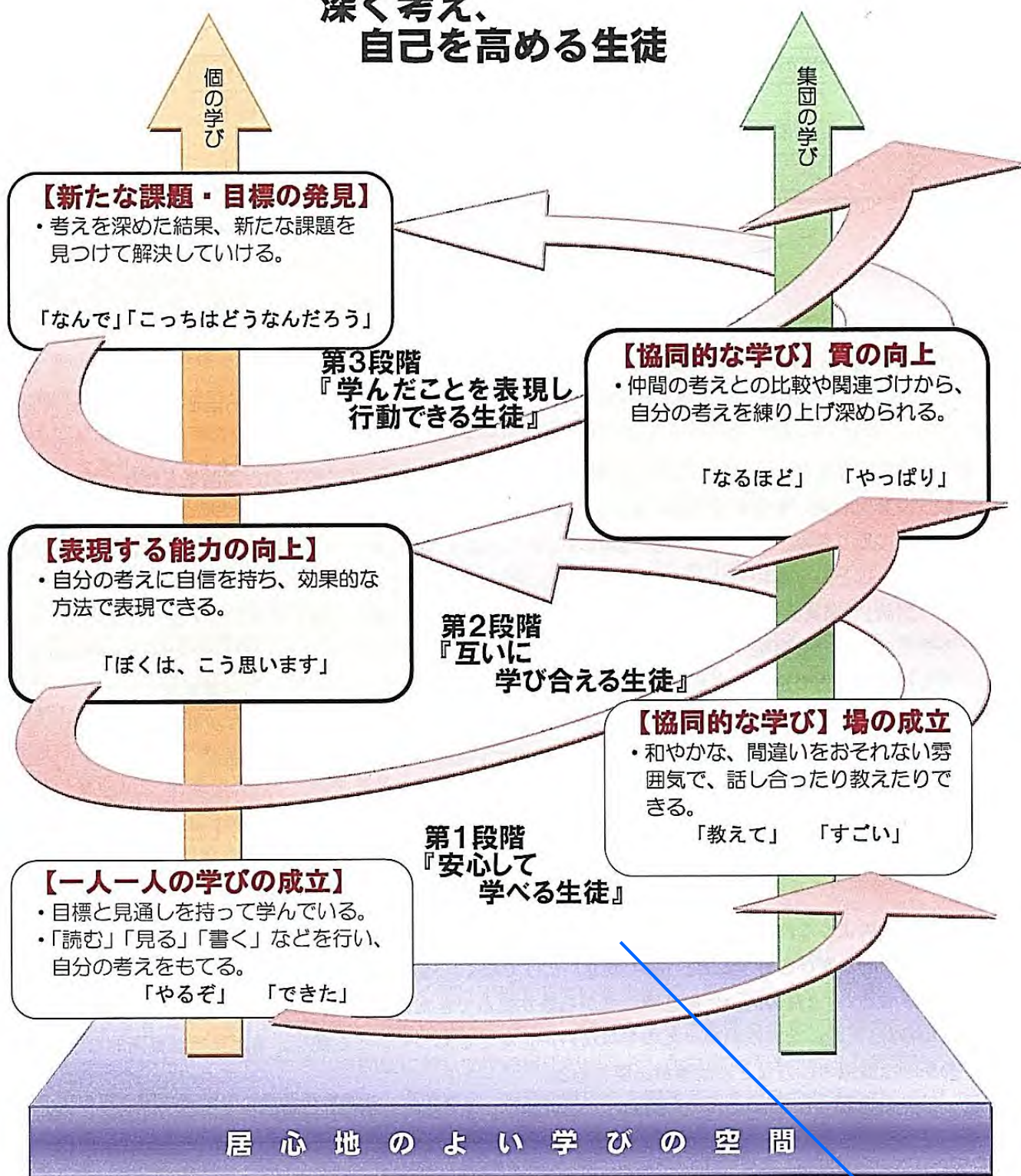
- (3) 授業での図書館利用の促進 . . . 各教科各学年で年間1回以上の利用を目指す。

- 選定図書について . . . 各教科の調べ学習等で必要な図書を調査し, 本年度購入図書の選定に生かす。

- 授業での利用について

- ・ 事前に図書館司書に使用の目的や必要な物等を相談する。
- ・ 図書館にない資料は他の図書館より取り寄せることが可能です。
- ・ 作業を伴う場合は, コンテナ等で教室に必要な資料を運ぶことも可能です。

研究構想図

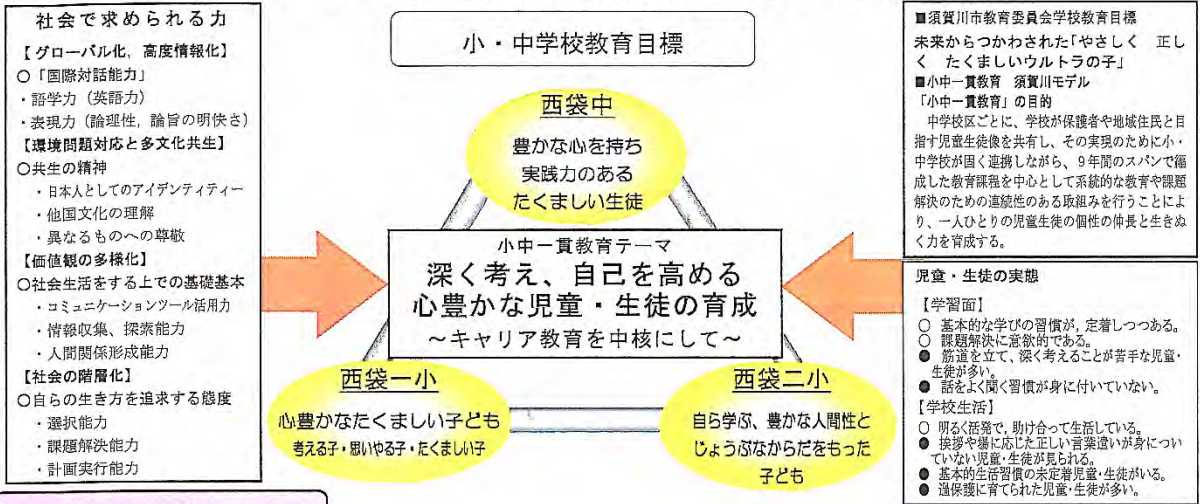
深く考え、
自己を高める生徒

目指す生徒のすがた

「深く考え、自己を高める生徒」を最終的な「目指す生徒のすがた」とし、「安心して学ぶ生徒」を第1段階、「互いに学び合える生徒」を第2段階、「学んだことを表現し、行動できる生徒」を第3段階と設定している。

小中一貫教育（連携型）グランドデザイン

令和元年度 西袋中学校区小中一貫教育（連携型）グランドデザイン



9年間で目指す児童・生徒像

身に付けさせたい資質・能力	西袋第一小学校 西袋第二小学校			西袋中学校		
	1, 2年	3, 4年	5, 6年	1, 2年	3年	
◎人間関係形成能力 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることとともに、自分の置かれている状況を理解し、役割を果したつて他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	○他者の思いに気付く力 ○他者を理解する力 ○自分の思いを伝える力 ○他者と協働する力 ○礼儀をわかまえる力	○友だちと仲良くする子ども ○家族や先生に自分の気持ちを伝えられる子ども ○大きな声であいさつや返事をする子ども	○友だちと協力して学習や生活に取り組む子ども ○友だちのよいところを認め、励まし合う子ども ○友達に自分の気持ちを伝えられる子ども。 ○自分から進んであいさつする子ども	○思いやりの心をもち、相手の気持ちを考えながら行動する子ども ○縦割り班の活動に積極的に参加し、役割と責任を果たす子ども ○自分の悩みを相談できる人がいる子ども。 ○集団生活のマナーを守れる子ども。	○他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする生徒 ○友だちの気持ちや考えを理解する生徒 ○時と場合をわきまえて、礼儀正しく接する生徒	○自分から役割や仕事を見つたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動する生徒 ○友だちの相談に応じる生徒 ○時と場合に応じた適切な言動をとる生徒
◎自己理解能力 自分が「できること」「得意なこと」「したいこと」について、社会との相互関係を築きつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を振り返り、かつ、今後の成長のために進んで学ぶことができる力である。	○自分をみつめる力 ○自分のよさに気付く力 ○目標に向かって継続する力 ○自分をコントロールする力	○自分の好きなことや得意なことが言える子ども ○わがまましないで規則正しい生活をする子ども	○自分のよさを見つけていく子ども ○約束や社会のきまりを守る子ども ○自分でやろうと決めるとは粘り強くやりとげる子ども。	○自分の短所と長所がわかる子ども ○より高い目標をたてて、くじけないで努力することも。	○自分の個性や能力について理解を深める生徒 ○自分と他者の物事に対する感じ方やとらえ方の違いについて理解する生徒 ○自分の好みにかかわらず、やらなければならない学習や仕事に誠意をもって取り組む生徒	○自分の個性や能力を客観的に見ることができる生徒 ○自分が大切な存在だと考える生徒 ○得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組む生徒
能力 課題対応 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。	○課題をみつめ、解決しようとする力 ○挑戦する力 ○学習を生かして活用する力	○自分のことは自分で行おうとする子ども	○自分の力で課題を解決しようとする子ども	○生活上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする子ども ○学校生活や友人関係の課題を考え、居心地のよい関係になるよう解決策を考える子ども。	○よりよい生活や学習、進路や生き方を目標として自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する生徒 ○生徒会活動の課題を考え、更に充実した活動になるよう解決策を考える生徒	○夢や希望の実現に向けて課題を自覚し、その解決を目指す生徒 ○学校のリーダーとして学校生活の課題を把握し、全校児童生徒で解決しようとする生徒
キャリア・プランニング能力 「働くこと」の意義を理解し、自分が果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択し、活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。	○主体的に取り組む力 ○正しく判断する力	○家族の仕事の様子が変わり、興味をもつ子ども ○家事の手伝いや係や当番の必要性がわかる子ども	○身近で働く人の苦労や喜びを考えて仕事に興味をもつ子ども ○係や当番の大切さに気付き、進んで取り組み、働くことの楽しさがわかる子ども	○働くことの意義を考え、憧れとする職業や人物をもつ子ども ○学んだり体験したりしたことと生活や職業との関係を考える子ども。 ○委員会活動に責任をもって取り組み、貢献することの大切さを知る子ども	○学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりする生徒 ○職場訪問や調べ学習を通して職業に対する知識を深め、視野を広げる生徒	○社会における役割分担の意義と個々の果たすべき責任について理解する生徒 ○望ましい職業観を身につけた生徒

【学力向上部】・【豊かな心部】 西袋中学校区小中一貫教育推進委員会
・各校校長、教頭、主幹教諭、教務主任、※西袋公民館

【健康・体力部】・【地域連携部】

【西袋第一小学校・西袋第二小学校】
○**道徳教育の充実を図ります。**
特別の教科 道徳の時間を充実させ、深く考える時間やこれまでの自分やこれからの自分を見つめる時間を作ります。
○**自分や友達の良さをみつめます。**
異年齢集団での活動を大切にしたり、学び合いの学習を大切にしたりしながら、自分や友達のよさを見つけ、認め合う活動を行いながら、共感的理解にたつて学級集団をつくります。
○**校内研修の充実を図ります。**
外国語活動（西一小）、特別の教科 道徳（西二小）の研究を通して、自分の思いを伝える力を高めます。

情報交換
・授業研究会の積極的相互参加
・中学校体験Week
・教員交流研修
・西袋地区生徒指導委員会

【西袋中学校】
○**道徳教育の充実を図ります。**
人間としての生き方について自覚を深め、豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
○**自主的な活動の場、望ましい人間関係を深める時間を多く設定します。**
教師と生徒、生徒相互の触れ合いの場、生徒の自主性や自立性の育成を目指し、望ましいリーダーとなる生徒を意図的に育成する機会をつくります。
○「さらに居心地の良い空間づくり」をします。
各教科で小集団学習を取り入れ、授業を通して人間関係を構築するとともに、学習指導、生徒指導の基盤を確立します。

「確かな学力」の向上を目指すグランドデザイン

平成31年度 中島中学校 「確かな学力」の向上を目指すグランドデザイン

【 学校教育目標 】

- ・進んで学習する生徒
- ・心身ともに健やかな生徒
- ・心豊かな生徒

中島村学力向上連絡会における実践課題

- 生活・学習習慣の確立
- 学習意欲の向上
- 言語活動の充実
- 幼・小・中の連携

【 目指す生徒の姿 】

- (1) 確かな学力を身につけた「学び続ける生徒」
- (2) 豊かな心をもった「思いやりのある生徒」
- (3) 体力と健やかな体の「たくましい生徒」
- (4) 社会性を身につけた「判断力のある生徒」

平成30年度の成果

- ・全教職員による研究授業・事後研究会の取り組みが、生徒の学習意欲の向上につながった。
- ・各種学力テストの結果が上昇した。

平成31年度の重点

- ・家庭学習の質的向上を目指す。
- ・言語活動を基盤とした学び合う授業づくりを目指す。

研究主題

「意欲的に学び続ける生徒の育成」

平成30年度 研究副主題「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け活用できる授業づくり」

平成31年度 研究副主題「思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」

平成32年度 研究副主題「自ら学び、共に学び合える授業づくり」

〈 達成目標 〉

- 家庭学習の習慣化を徹底する。
授業に関するアンケート(6月、12月)で家庭学習に関する質問項目で「あまりやっていない」「やっていない」の回答を0%にする。
- 計算コンテスト(1学期)、漢字コンテスト(2学期)、東西スペリングコンテスト(3学期)を全学年で、全員合格を目指す。
- 村学力調査(CRT)
全学年・全教科前年度偏差値+2以上。
- 漢字検定、英語検定、数学検定
受検者数の増加および合格者数の増加。

〈 評価の手立て 〉

- ・授業に関するアンケートを実施
(6月、12月)
- ・学習コンテスト、定期考査の実施
- ・全国学力状況調査、福島県学力実態調査、村学力調査(CRT)の実施
- ・本校教職員一人一研究授業の実施

自己実現

確かな学力

意欲的に学ぶ授業

参加

参加

生徒

教師

支援

【授業づくりの具体例】

- ・問題解決的な授業の流れの工夫
- ・指導と評価の一体化(ねらいの明確化)
- ・構造的な板書計画の作成
- ・一単位時間における言語活動の位置づけ
- ・一単位時間におけるまとめの時間の確保
- ・授業とリンクした家庭学習の与え方
(ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用)

【授業づくりの視点】

～ふくしまの「授業スタンダード」の活用～

- 1 活動的
読む 観察 計算 調査
真似 好奇心 など
- 2 協働的
仲間で支え合う
- 3 表現の共有
仲間の発言から自分自身の考えや
在り方を吟味する

家庭学習マネジメントシート

マネジメントシートは、励ましや家庭学習に対する助言を書いて生徒へ返している。

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

5月28日(火) ~ 6月3日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
数学	計算を99%やる 大抵は満点 100%を目指す	色んなテスト 100%を目指す
理科	勉強の仕方を書いていく	"
社会	テストの出る場所を把握 99%やる	"
実態報告	社会だけ言ってもいいから、 知能も大事らしい。	

『今度はどんな学習を重点的にしますか?』

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月2日(火) ~ 7月8日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
数学	正負の数の 加法 減法 乗法 除法	加法 減法 のやり方 乗法 除法 が混ざってミスしてしまっている ここから分かる、やり方を覚える
理科	植物の世界	ニガテナ科などから
社会	歴史のおこり	歴史を 知らないよ。
実態報告	計画的に学習を進めていこうができた。	

自分リサーチシート

『今度はどんな学習を重点的にしますか?』

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月18日(火) ~ 7月19日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
英語	単語練習	スペルを 聞き覚えいかに 実力 テスト に向けて
数学	できただけ、多くの 問題を解く。	暗に 自問の 裏書き なごした ミスな 減らすため
社会	地理 国と国形	地図を見て答えるの ニガテナ科から
実態報告		

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

6月18日(火) ~ 6月24日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
理科	身近な生物の観察の 花・葉のつくり	単元テスト、期末テストや 理解できていないから。
社会	世界の茶 世界各地の人々の生活	テストでまちがえた所や 苦手な所を身につけるため
国語	漢字 プレテスト①~③	完ぺきにして、50点は とるため。
実態報告	しっかりできました。	

『その家庭学習にはどんな効果があるのだろうか?』

7月9日(火) ~ 7月15日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
英語	単語 を喜びのうちにやる!	実力 テスト に向けて 読むだけでなく、 着けないといけな
数学	正負の数 ~ 全部	ニガテなど
社会	地理 / 歴史	アジア 。入国 。試験 。起り
実態報告	英語があまりできなかった。	

7月2日(火) ~ 7月8日(月)

教科	学習内容(具体的に書こう)	何のために学習するの?
理科	期末の復習 光合成の働き	まちがえたところを 身につけるため。
社会	歴史(忍たら)	歴史をたくさん 知りたいから。
国語	漢検勉強	もう少しで 漢検があるから 勉強しよう!
実態報告	よくできました。OK!	

学校経営・運営ビジョン

令和元年度 喜多方市立会北中学校 学校経営・運営ビジョン



教育目標

- 《知》 自ら学ぶ生徒 (自己教育力)
- 《心》 共に生きる生徒 (個性と共生)
- 《体》 明るく健康な生徒 (健康な心身)

本校は、昭和32年創立の伝統ある学校です。「どの生徒も生き生きと活動する学校」を目指し、学校・保護者・地域が手を携えて教育活動に取り組んでいます。私たちは小規模校の特性を生かし、本校ならではの特色ある教育活動を展開し、ふるさとを愛し、郷土と自分に誇りと自信が持てる生徒の育成を目指します。

重点目標「気づき、考え、実行する生徒の育成」

《知》○ 学習意欲と主体的な学びの向上
○ 学びの習慣化

○ 「わかる・できる」授業の実践(喜教Ⅴ)
・少人数の良さを生かし、個に応じた学びを大切にします。(密着に応じた課題設定)
・授業の基本を確実に実践します。
・課題設定・主体的な学び・確実なまとめ
・考えをつなぐ発問・板書・机間巡視

○ 基礎的な資質・能力の育成(喜教Ⅱ)
・知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を工夫します。(コンピテンシー教育の充実)

○ 学ぶ意欲と習慣化(喜教Ⅱ)
・授業と家庭学習をつなぎ、学習の意欲づけと習慣化を図り、知的好奇心や自己学習力を育成する教育を展開します。

○ 表現活動の充実
・自信を持って発表・表現できる生徒を目指し、授業をはじめ、学校生活の中に発表と表現の場を位置づけます。

《徳》○ 共生・協働する力
○ 思いやりの心の育成

○ 道徳教育の充実
・考え議論する教科道徳を要とし、学校教育全体を通して豊かな心の育成に努めます。

○ コミュニケーション能力の育成(喜教Ⅳ)
・Q-Uの結果をもとに、対人関係の基盤的なスキルを身に付けさせ、互いに認め、高め合う集団をつくります。

○ 心に響く生徒指導の実践
・通にふさわしい、あいさつ・服装・言動を学校生活全体で習慣化し、社会生活の基本を育てます。

○ 地域に根ざした体験活動の充実(喜教Ⅰ・Ⅱ)
・ふるさと学習、ボランティア活動、環境体験等の体験的活動によるキャリア形成を通して自尊心、自己肯定感を育みます。

《体》○ 健康と安全への態度の育成と体力・運動能力向上
○ 心と体の健康と安全

○ 健康・安全教育の充実(喜教Ⅳ)
・心身の健康の大切さ・安全な生活を理解し、実践できる生徒を育成します。
・SC や SSW、関係機関と連携した相談体制を強化し、心の健康を充実させます。

○ 体力・運動能力の向上
・自己の体力の現状を把握し、体力を向上させるための具体的な活動を考え、進んで体を鍛える生徒を育成します。

○ 食育の充実
・教科と給食指導、農の学びを関連づけ、「食」に関する指導の充実を図ります。

○ 部活動の充実
・生徒間および顧問教師との信頼関係のもと、事故防止を第一に考え、生徒の主体性を生かした活動を目指します。

めざす会北中の生徒像

《知》
・高い目標と意欲を持って、主体的に学習に取り組む生徒
・自らの考えを自信を持って表現できる生徒

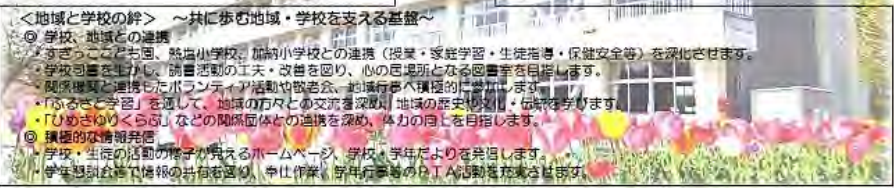
《徳》
・相手を認め、思いやりを持って行動し、いじめを絶対に許さない生徒
・母校と郷土を愛し、集団の一員として役割を果たせる生徒

《体》
・心身の調和のとれ、基本的生活習慣が身についた生徒
・健康と食について考え、意欲的に体力の向上に努める生徒

「H31 喜多方市の学校教育」

目標 全ての子どもが「生きる力」を育ぐ

- 【重点内容】
- 1 子どもの資質・能力を育成する
 - I 自己学習力の育成
 - II 学力の基となる基礎的な資質・能力の育成
 - III 勤労観、職業観及び規範の基本的資質・能力の育成
 - IV 共創、密着の態度及びコミュニケーション能力の育成
 - 2 V 資質・能力の向上
 - 3 VI 安全で楽しく学ぶことができる学校環境の整備
- 【喜多方市の3つの共通実践】
- ① 授業の質的改善「教師が話す授業」から「子どもがかわりあっている授業」へ
 - ② 自己肯定感を育む活動の充実
 - Q-Uの活用
 - 自分や友だちの良さを認め合う
 - 地域とともに歩む学校づくりの推進
 - 地域人材の活用による教育活動の推進
 - 学校から地域への「発信」の充実



<地域と学校の絆> ～共に歩む地域・学校を支える基盤～

- 学校・地域との連携
 - ・ふるさと学習、鴨指小学校、加納小学校との連携(授業・家庭学習・生徒指導・保健安全等)を深化させます。
 - ・学校司書を生かし、読書活動の工夫・改善を図り、心の居場所となる図書室を目指します。
 - ・関係機関と連携したボランティア活動や敬老会、地域行事へ積極的に参加します。
 - ・「ふるさと学習」を通して、地域の力と交流者深堀り、地域の歴史を学び、地域を学びます。
 - ・「ひまわりくらぶ」などの関係団体との連携を深め、体力の向上を目指します。
- 積極的な情報発信
 - ・学校・生徒の活動の様子が見えるホームページ、学校・学年だよりを発信します。
 - ・学年別活動で情報共有を図り、中止作業、学習指導の工夫・活動を充実させます。

学力向上グランドデザイン

令和元年度 喜多方市立会北中学校 学力向上グランドデザイン

<教育目標>
○自ら学ぶ生徒 ○共に生きる生徒 ○明るく健康な生徒

<実践事項>
○学習意欲と主体的な学びの向上 ○学びの習慣化
○自治力の育成 ○思いやりの心の育成 ○健康と安全への態度の育成と体力・運動能力向上 ○心と体の健康と安全

<重点目標>
「気づき、考え、実行する生徒の育成」

<目指す生徒像(知)>
・高い目標と意欲を持って、主体的に学習に取り組む生徒
・自らの考えを自信を持って表現できる生徒

<保護者の願い>
自ら進んで学習できる生徒

<教師の願い>
自分の方で課題を解決しようとする生徒

<生徒の願い>
夢をかなえるために努力する生徒

研究主題 「主体的に学び、表現する力を高める指導の工夫(2年次)」
副主題 「対話的な学びにより広がった考えを知識として定着させるための振り返りの実践を通して」

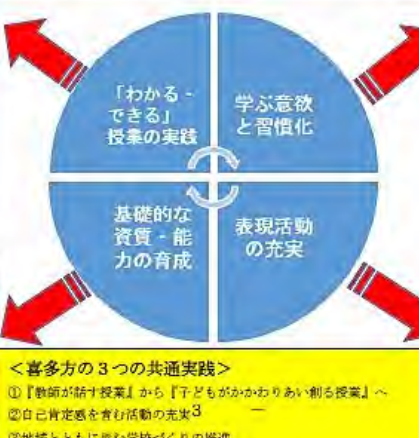
○一人一人に対応した学びを大切に授業の工夫

○授業の基本の確実な実践
・課題設定・主体的な学び・確実なまとめ
・考えをつなぐ発問・板書・机間巡視

○日常での教員の学び合い
・互見授業や検証授業などの定期的な実施
・協議会、伝達講習など校内研修の充実

○知識・技能の確実な定着を図るための支援
・定着確認シートの効果的な活用
・学習コンテストの実施(漢字・計算・スペリング)

○コンピテンシー教育の充実
・思考力・判断力・表現力、活用・応用力を育成する学習活動の工夫



○「新たな学び」を促すための学習過程の工夫
・課題→追究→解決→新たな課題→追究
・知的好奇心や問いの力の育成

○授業と家庭学習に連続性を持たせる工夫
・「授業→家庭学習→(朝)の学習→授業」の学習サイクル
・「家庭学習の手引き」・「ローテーションノート」の継続的な活用

○自信を持って発表・表現できる生徒の育成
・「望ましい人間関係」を構築し、「自己肯定感」を高める指導や支援の工夫
・Q-Uテストの分析・活用

○学校生活全般に発表と表現の場面の設定
・各教科における育商活動の充実
・朝会や生徒会行事でのスピーチや発表

<喜多方の3つの共通実践>

- ①【教師が話す授業】から「子どもがかわりあっている授業」へ
- ②自己肯定感を育む活動の充実³
- ③地域とともに歩む学校づくりの推進

学力向上計画

令和元年度 学力向上計画

南会津町立館岩中学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
指導体制の工夫・改善 ・きめ細かな授業 ・補充学習の充実	「課題(めあて)、まとめ」の提示と「振り返り」を意識した授業構成・ICTを活用した授業												
	日常的な授業参観と指導助言												
	学習室の活用(長期休業、定期テスト前、各種検定、入試に向けた補充学習の充実)												
	生徒の実態把握 手だての共通理解											生徒の変容に基づいた 指導体制の評価	
教育課程の改善・充実 ・授業者セルフチェック ・学力テスト分析 ・各種アンケート	生徒の実態把握 課題の確認											NRTの分析	
		授業スタンダード チェックシートの活用											授業スタンダード チェックシートの活用
		全国・学力学習状況調査の分析・考察											
		ふくしま学力テストの分析・考察											
		活用育成シート、定着確認シートの活用											
		学習アンケートの実施											学習アンケートの実施
												教育課程の評価・見直し	
指導力の向上 ・校内研修の充実 ・授業技術の向上	生徒の実態把握 年間指導計画の確認											生徒の変容に基づいた 授業分析、評価	
		一人一授業の実施、授業研究を通じた実践の積み上げ											
		授業の振り返りと公開授業の準備											
		先進校研究視察と共有											
		幼小中連携 公開授業(7/11)											理科コアティ ーチャー授業 研究会(10/17)
												要請訪問 I 授業研究会 (11/19)	
												学校評価の 実施と改善	
												学校評価の 実施と改善	
												学校評価を踏まえた 取り組みの見直し	
家庭・地域との連携 ・家庭学習の充実 ・学習習慣の確立 ・学校日より HP の活用	保護者会での家庭学習 スタンダードの説明	学校評価の 実施と改善											学校評価の 実施と改善
	家庭学習目標の設定	家庭学習ノート等の提出・家庭学習内容や方法のアドバイス・励まし											
	家庭学習方法の指導	学習サポートティーチャーによる 学習支援、学習の仕方のアドバイス											学習サポートティーチャーによる学習支援
												三者相談での学習 相談と目標の確認	
												二者相談での学習相談と 家庭学習の評価・見直し	

数学科オリエンテーション

数学 オリエンテーション

1 数学の目標

- ① 基礎・基本をしっかりと身につけよう。
- ② 解決への見通しを持って課題に取り組もう。
- ③ 発展的な問題に進んで取り組み、より確かな学力を身につけよう。

2 学習の心構え

わからないところはわかるまで食い下がり、必ず解決しよう。

3 学習の仕方

授業での学習 学習の第一段階は学校での学習です。

- ① 先生の説明は作業をやめてしっかりと聞く。
 - ・理解できたときははずす、わからないときはわからないと言えるような心構えで。
- ② 課題に敏感に反応しよう。
 - ・数学は考える過程がとても大切です。先生が出した課題に対する発言や思考を積極的にしよう。
- ③ ノート・学習プリントは工夫して記入しよう。
 - ・きれいに記入することも大切ですが、先生が話したキーワードや用いた公式をメモしておくことが大切です。
- ④ 問題練習の時間を大切にしよう。
 - ・授業のはじめに、計算トレーニングを行います。数学ではイメージのつかない声を出す作業やメモをせずに計算をするという時間です。集中力や計算力を養いましょう。
 - ・授業の内容が理解できているかの確認の時間です。わからないところを解決するには先生にどんどん質問することが大切です。

家庭での学習 学力を身につけるには家庭学習が大切です。

- ① その日の学習はその日のうちに復習する。
 - ・数学の友を使って、その日のうちに復習しておこう。後になればなるほど、授業の内容が薄れてしまいます。
- ② わからないところをもう一度確認しよう。
 - ・学校でわからなかった問題も、家で落ち着いて考えれば意外と解決できてしまうものです。
- ③ 進んで問題に取り組み、実力アップを目指そう。
 - ・実力アップは自分の努力次第です。最低限の学習から、欲張りの学習への転換を図ろう。

学校での解決 わからないところは最後まで食い下がろう。

- ① 数学の先生方を大いに利用しよう。
 - ・昼休みは学習室を利用して、宿題に取り組んだり、疑問点を解決しよう。また、岩堀先生が授業の応援に来てくださるなど、理解しようと思えば、どこまでも学習することができます。徹底的に先生方を利用しよう。

○ 授業で用意するもの

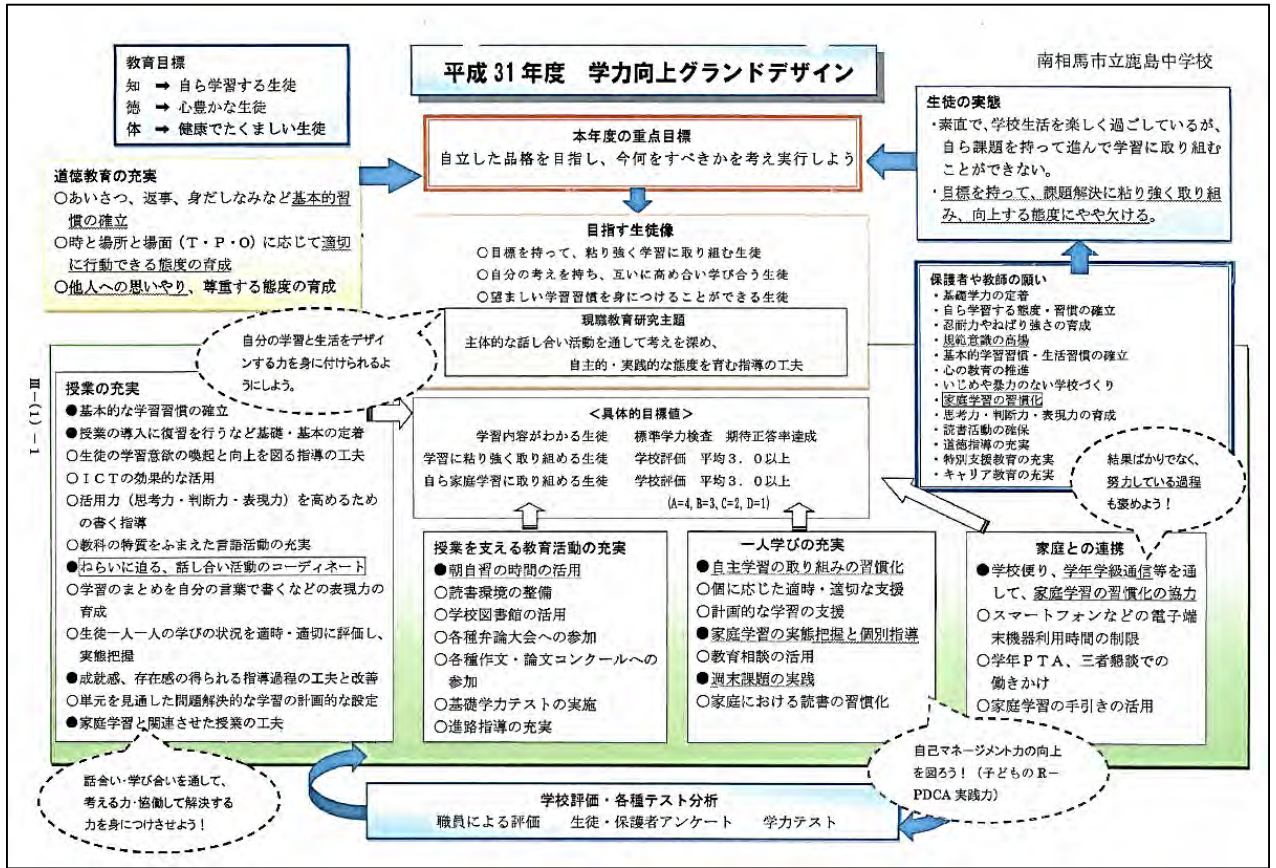
- ・教科書
- ・ノート
- ・数友
- ・ファイル
- ・計算練習帳
- ・直定規

※必要に応じて
三角定規 コンパス 電卓

○ 数学の教科員の仕事

授業開始前 反省用紙を職員室から受け取り、配布しておく。
授業終了後 反省用紙を回収し、職員室までもっていく。

学力向上グランドデザイン



現職研修部による毎月の振り返り

※月初めに目標を立てて(○を1つか2つ付けて)その達成度を(その○の中に)4~3で答えください。 4:よくできた 3:できている 2:あまりできていない 1:全くできていない		R1.11.11 南相馬市立鹿島中学校 現職研修部	
本校の手立ての人数	南相馬市授業改善プラン 9つの課題 <月ごとに取り組む重点的課題>	例	8月 10月
①生徒一人一人の実態的確な把握	(生徒一人一人の実態的確な把握)		2学期からの目標は話しすこと 家庭学習
②学習意欲を喚起させる課題設定の工夫	1. 話し合い・学び合いを通じ、生徒相互に啓発するような授業の設定	④	
④目的に応じて資料を読み取り、話ししたり、書いたりする学習活動の指導	2. 目的に応じて資料を読み取り、話ししたり書いたりする学習活動の指導		
③目的をもった話し合い活動の充実	3. 活発な発言を促すため、発表する場の意図的な設定		
⑥根拠を明確にして書く学習活動の指導	4. 根拠を明確にして書く学習活動の重点指導		
⑥学びを振り返らせる板書とノートの書き方の指導	5. ノート指導の工夫 6. 板書が果たす役割の重視と工夫	②	
⑦適用とまとめの時間の確保	7. 適用とまとめの時間の確保		
⑧家庭学習の指導・支援	8. 計画的な家庭学習の習慣化		
⑨読書活動の推進	9. 読書活動の推進		
令和元年10月 先生方の実践報告 気づいたことや反省	○ 朝の読書は、新聞や興味を示しやすい本を学級に置いたところ、徐々に自分から好きな本など持参するようになってきている。 ○ 家庭学習への取り組みは、家庭との連携を図り、国語・数学・英語から、その日行う教科をホワイトボードに記入させたとこ、見通しが立つようになってきた。 ○ 授業では、教師の説明が多く、話し合いの場を設定することがあまりできなかった。 ○ 学習内容に応じて、資料の読み取り方を練習し、そこから分かることなどを書く活動を取り入れ、少しずつ書けるようになってきた。 ○ 考えを広めよう場を意図的に設定することができた。他の考えをきくことが発見に繋がり、自分の解決の方法に取り入れる姿が見られた。 ○ まとめがあるので、時間を確保し、お互いの考えを説明する場をグループ内で設定した。 ○ 家庭学習のチェックは行えたが、改善に向けての指導が不十分だった。ペアや全体で発表する場合は、設定できたように感じる。 ○ 家庭学習シートを作成し、授業の中で使用する場面を設定した。 ○ 合戦練習中、パートリーダー会議を行うことで、リーダー達に知識や責任感が身に付き、パートのメンバーに堂々と意見を言う様子が見られた。 ▼ 文化祭の準備などで話し合い活動を充実させることはできなかった。発表は、先月よりも機会があったが、全員はできなかった。 ▼ 制作を優先させたため、まとめの時間があまりとれなかった。		

学力向上マネジメントサイクルプラン

【日本の子どもたちの学力課題】：PISA 調査から
 1 読解力、判断力や表現力が十分に身に付いていないこと。
 2 勉強が好きだと思わない子どもが少なくないこと、学習意欲が高くないこと。
 3 学校の授業以外の勉強時間が少ないこと。

《中央台北中学校生徒の学力課題》：全国学力調査から
 1 「わかりやすく伝わるように書く」という領域では、条件を満たして
 いないため改善と変わっている生徒が多い。
 2 数値A「中央値」と「2つのさいころの目の和の確率」など、確率、
 統計分野において「正答率が低い」という考えをもつ生徒が少なく、「光の反
 射の規則性」などの領域において低い正答率となっている。
 4 「地域社会でのボランティア経験」が低く、地域連携が必要である。

平成31年度
 いわき市立中央台北中学校
 学力向上マネジメントサイクルプラン

重点資質・能力
自主性の育成

【願望する学校応援プラン：主要施策】
 1 学力向上に責任を果たす
 2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化
 3 地域とともにある学校
 4 ふくしよの未来に向けた創造的復興教育
 5 学びのセーフティネットの構築

【いわき市教育委員会】
 ○未来をつくる
 いわきの学校教育 ABC プラン

【目 標】
 次世代のいわきを担う、「生きる力」
 を身につけた子供の育成
 《学校教育の約束》 H28-H32
 「夢に向かってチャレンジする
 子供を育みます」

視点 A: Activity (体験活動・学習支援)
 視点 B: Base (教育の土台)
 視点 C: Care (子供の命を守る)

生きる力
 ◎基礎的・基本的内容の
 確実な定着
 ◎自ら学び自ら考える力
 (問題解決的な学習)

確かな学力
 1 知識・技能の学習
 2 学習意欲などの動機
 3 問題解決的な学習

中央台の風：目指す学力
 キャリア能力 (基礎的・汎用的能力) を兼ね備えた学力

◎主体的に授業へ取り組み生徒
 ◎自主的に家庭学習へ取り組み生徒
 ◎みんなが協力(学び合い)して学習する生徒
 ◎未来なマネジメントサイクル学習法を実践できる生徒
 ◎結果を自己分析し、勉強方法を改善できる生徒
 ◎わからないことやできないことに取り組む生徒

学びの連続性 (経営力)・意欲の連続性 (指導力)

基礎的汎用的能力：4つのキャリア能力	
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力
課題対応能力	キャリアアリアプランニング能力

教科的学力 (知識・理解・技能)

重点 学び方を確実に身につけた子どもの育成

【視点1】「授業スタンダード」の実践
 ◎個に応じた細かい細かな指導
 ◎「指導と評価」の一体化を意識した授業
 ◎「自主性を培う問題解決的学習・体験的学習」

【視点2】思考力を高める「読書の工夫とノート指導の実践」
 ◎「ノートルール」の実践と評価
 ◎優れたノートの奨励
 ◎授業の流れや学習内容がわかる板書づくり
 ◎板書やノートを「思考の場」にするための指導の工夫

【視点3】「家庭学習スタングレード」の実践
 ◎学習内容を家庭学習につなぐ授業の実践
 ◎保護者と連携し、継続できる指導方法の研究
 ◎「自主的に学習する」力を身に付ける研究
 ◎長期休業中(夏休み・冬休み・春休み)の学習の在り方
 ◎キャリア教育を関連させた自主学習

活用的学力 (思考力・問題解決力・読解力・表現力など)

重点 夢や希望を実現しようとする子どもの育成 (キャリア教育)

【視点1】学級活動 (2)：学習の仕方を学ぶ
 ○1学年：学習方法について考え、正しい方法や自分に合った方法を選択し、目標をもって努力する。
 ○2学年：具体的な学習方法や目標を決めて、継続して努力する。
 ○3学年：自分に合った学習方法を決めて、目標をもって粘り強く努力する。

【視点2】読書プロジェクトの実践
 (1) 読書で夢を広げよう ①読書の推進 ②読書アルバム作成
 ◎読書の読書・親子読書の推進
 ◎週末読書・家庭読書の推進
 ◎図書館授業の積極的な実施
 ◎課題解決や調べ学習などで図書館を活用

【視点3】キャリア能力 (基礎的汎用的) を意識した授業づくり
 ◎キャリア能力へつながる指導方法の研究・開発

【評価の方法】(年2回のアンケート)
 1 学校評価
 2 授業参観評価
 3 福島県定着確認シート
 4 福島県学力テスト
 5 標準学力調査 (CRT)
 6 全国学力テスト

【評価内容と数値目標】
 1 学校評価が「満足している」と答える生徒の割合
 2 家庭学習目標達成率
 3 読書量
 4 将来の夢や目標が話せる生徒の割合
 5 各種テストが前年度と比較して上回る学年

【評価内容と数値目標】
 1 学校評価が「満足している」と答える生徒の割合
 2 家庭学習目標達成率
 3 読書量
 4 将来の夢や目標が話せる生徒の割合
 5 各種テストが前年度と比較して上回る学年

指導と評価の一体化
 ◎毎時間の授業の評価を本時の指導に生かす (指導と評価の一体化)
 ◎授業参観評価から保護者へ授業の改善や後期の指導方法を伝える。
 ◎学校評価から (前期：重点項目及び数値目標を設定する。)(後期：1年間の指導の区別の習熟度を確認し、個別指導を生かす。)

指導の改善
 ◎定着シートを活用し、生徒ひとりひとりの結果を分析し、次年度の学力向上プロジェクトを決定する。
 ◎各学力テストの結果を分析し、次年度の学力向上プロジェクトを決定する。

家庭教育の中で保護者を取り組めること

1 規律正しい生活をさせる。(自己統制力=最後までやり抜く)
 ○起床、登校、食事、入浴、就寝を予定通りきちんとさせる。
 2 子どもへの心と健康状態を把握して学習時間を確保する。
 ○似か、疲れ、体調不良、病氣などを把握する。
 3 子どもが将来の夢や目標について話している。
 ○宿題やテストの時間について確認する時間を作り出す。
 4 ムの時間を「読書の時間」に少しでも替える工夫をする。
 5 勉強をする場所を決める。(できるだけ自分の届く場所です！)

学習習慣・学習意欲を高める教師の働きかけ

1 健康と生活習慣の確立
 ○規律正しい生活をさせる。
 ○適度な運動をさせる。
 ○栄養を十分にとらせる。
 ○睡眠を十分にとらせる。
 2 自覚性・自主性を伸ばす
 ○学校生活の中で何事にも、元氣よく、前向きに、積極的に取り組むよう指導する。
 ○自己効力感と成功感を味わわせる。
 ○成功体験：生徒自身が「よくできた」という体験
 ○自己効力感：「自分もやればできる」という自信
 ○前向きな達成感：努力の積み重ねで必ず達成
 ○自己肯定感：自分も受け入れる体験

3 集中力・注意力・根気強さ・社会性を身に付けさせる。
 ○話し合いでも粘り強く努力する。学習の基本的な条件
 ○「落ちこみ」でも粘り強く努力する。学習の基本的な条件
 ○相手の立場を考慮し、お互いを尊重し、集団の規則を順守
 ○ノートとリガを工夫させる。(自分で楽しみながら！)
 ○黒板を写すだけでなく、先生が話す重要な点を書く。
 ○解答を書くための考え方や途中の式もきちんと書く。
 ○正しい日本語できれいな字で書く。
 ○教科によつて色を使い分けやすく書く。
 ○自分の考えや他人の意見などを書き切る。
 ○ノートの一冊を最後まで使い切りし、まとめる。
 ○資料のコピーを貼ったりしてまとめる。